

マニュアルの使い方

本製品には次のマニュアルが用意されています。

● **安心してお使いいただくために**
パソコンをお使いになるときに守っていただきたいこと

① **基本編**...パソコンがはじめての人も、そうでない人も
パソコンを使えるようにするまで (Windowsのセットアップ)
パソコン操作の基本
文字の入力
パソコン本体の機能

② **活用編**...もっといろいろなことができる
すぐに使えるソフトウェアの紹介
周辺機器を使うとき
システム構成の変更やパスワード

③ **困ったときは**...わからなくなったら
よくある質問とその解決方法
パソコンを購入時の状態に戻す (再セットアップ)

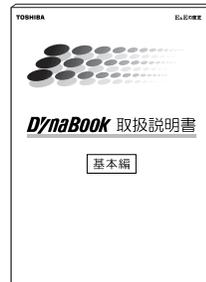
● **インターネットに接続しよう!**...外の世界へ出てみよう
インターネットに接続する方法

● **オンラインマニュアル**
すぐに使えるソフトウェアの紹介
こんなことがしたい
困ったときは
パソコン用語集 *本製品の電源を入れたときに見ることができます。

マニュアルは、本製品の使い方についてできるだけわかりやすく説明しています。すでにパソコンを使ったことのある方も、必ずお読みください。お読みになった後も、いつでも取り出してご覧になれるよう、保管しておいてください。

リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用する上での注意事項などが記述されています。必ずお読みください。
本製品の電源を入れた状態で、[スタート]メニュー-[はじめに]-[リリース情報]をクリックするとご覧になります。



《 本書 》

もくじ

マニュアルの使い方	1
もくじ	2
はじめに	6
表記について	15
パソコンの準備	17
1. パソコンの置き場所	17
2. 電源につなぐ	19
初めてパソコンを使うときには	21
1. 電源を入れる	21
2. Windows 98 のセットアップ	21
3. ユーザ登録をする	30
4. 電源を切る	32

1 章 電源を入れる / 切る

1 電源を入れる	36
2 電源を切る	38
3 作業を中断する	39
4 簡単に電源を切る / 作業を中断するとき	42

2 章 パソコンをさわってみよう

1 デスクトップとは	46
2 基本操作を覚えよう	47
3 ウィンドウを開いてみよう	48
4 ファイルやフォルダを作ってみよう	49
5 ファイルやフォルダをコピーしよう	55
6 ファイルやフォルダを削除しよう	57

3章 文字を入力してみよう

- | | | |
|---|------------------------|----|
| 1 | メモ帳を開く | 64 |
| 2 | キーボードについて | 65 |
| 3 | 文字を入力しよう | 66 |
| | 1. MS-IME とは | 66 |
| | 2. 入力モードを決める | 67 |
| | 3. ひらがなを入力しよう | 69 |
| | 4. ひらがなを漢字に変換しよう | 71 |
| | 5. カタカナを入力しよう | 72 |
| | 6. 記号を入力しよう | 72 |
| | 7. 英数字を入力しよう | 74 |
| 4 | 文書を保存しよう | 76 |

4章 パソコンのしくみ

- | | | |
|---|----------------------------|----|
| 1 | ハードウェアとは | 80 |
| | 1. 記憶装置 | 80 |
| | 2. 表示装置 | 81 |
| | 3. 入力装置 | 82 |
| 2 | ソフトウェアとは | 83 |
| | 1. OS (オペレーティングシステム) | 83 |
| | 2. アプリケーション | 83 |

1章

2章

3章

4章

5章

5章 本体の機能を知ろう

1	各部の名前	86
	1. 内蔵装置	89
	2. インターネットボタンとメールボタン	91
2	インジケータ	94
3	バッテリー	96
	1. バッテリー充電量を確認する	98
	2. バッテリーを充電する	100
	3. バッテリーパックを交換する	101
4	キーボード	104
5	マウス	111
	1. マウスを取り付ける	111
	2. マウスの使い方	112
6	フロッピーディスク	113
	1. フロッピーディスク	113
	2. フロッピーディスクのセットと取り出し	114
	3. フロッピーディスクを使う前に - フォーマットとは	115
7	CD / DVD	117
	1. CD / DVD	118
	2. CD / DVD のセットと取り出し	119
	3. CD-RW / CD-R に書き込む	122
	4. CD 操作ボタンを使う	123
8	サウンド	125
9	内蔵モデム	127
10	日常の取り扱いとお手入れ	129

1
章

2
章

3
章

4
章

5
章

はじめに

このたびは、ダイナブック DynaBook (DB60P / DB50C) シリーズをお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

本製品は高性能・コンパクトを特長とするパーソナルコンピュータです。本書は本製品の基本的な取り扱い方をできるだけ簡単に、正しく理解できるように作られています。お読みになった後も、いつでも取り出せる場所に保管しておいてください。

漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人 日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータ業界基準 (PC-11-1988) に適合しております。

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 日本電子工業振興協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



 省電力設定について ▶ 『活用編 1 章 2-省電力ユーティリティ』

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項をお守りください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第50条1項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



使用できない国、地域

内蔵モデムは、次の国で使用できます。

アイルランド、アメリカ合衆国、イギリス、イタリア、オーストラリア、オーストリア、オランダ、カナダ、ギリシャ、スイス、スウェーデン、スペイン、デンマーク、ドイツ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、フィンランド、フランス、ベルギー、ポルトガル

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域ではご使用になれません。ご注意ください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムをご購入ください。

内蔵モデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。

上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

自動再発信の制限

内蔵モデムは2回を超える再発信(リダイヤル)は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します(『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を2回以下または再発信間隔を1分以上にしてください)。

* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準(アナログ電話端末)「自動再発信機能は2回以内(但し、最初の発信から3分以内)」に従っています。

モデムの国設定

● 《オンラインマニュアル-内蔵モデム用国選択ユーティリティ》

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的に又は家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製(データ形式の変換を含む) 改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをなされる場合には、著作権法を遵守の上、適切にご使用を心がけていただきますよう、お願いいたします。



- ・ 雷雲が近づいてきたときは、モジュラープラグを電話回線用モジュラージャックから抜いてください。電話回線に落雷した場合、内蔵モデムやパソコン本体が破壊されるおそれがあります。
- ・ 内蔵モデムを使用する場合は、ご使用になる国にあわせてモデムの国設定が必要です。

FCC information

Product name : DynaBook Satellite 2750/2690 series
Model number : PS275*/PS269*

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING: *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by Toshiba is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's or serial port, external monitor port, PS/2 mouse port, parallel port, microphone jack and headphone port. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by Toshiba or parties authorized by Toshiba could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : Toshiba America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697
Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA

EU Declaration of Conformity
 EU Übereinstimmungserklärung
 Déclaration de conformité UE
 Declaración de conformidad de la UE
 Dichiarazione di conformità UE
 EU Försäkran om överensstämmelse

Toshiba declares, that the product: PS275*/PS269* conforms to the following Standards:

Toshiba erklärt, daß das Produkt: PS275*/PS269* folgenden Normen entspricht:

Toshiba déclarent que le produit cité ci-dessous: PS275*/PS269* est conforme aux normes suivantes:

Toshiba declaran que el producto: PS275*/PS269* cumple los siguientes estándares:

Toshiba dichiara, che il prodotto: PS275*/PS269*, é conforme alle seguenti norme:

Toshiba intygar att produkten: PS275*/PS269* överensstämmer med följande normer:

Supplementary Information: “The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC and the EMC Directive 89/336/EEC.”

Weitere Informationen: “Das Produkt entspricht den Anforderungen der Niederspannungs-Richtlinie 73/23/EG und der EMC-Richtlinie 89/336/EG.”

Informations complémentaires: “Ce produit est conforme aux exigences de la directive sur les basses tensions 73/23/CEE et de la directive EMC 89/336/CEE.”

Información complementaria: “El Producto cumple los requisitos de baja tensión de la Directiva 73/23/CEE y la Directiva EMC 89/336/CEE.”

Ulteriori informazioni: “Il prodotto é conforme ai requisiti della direttiva sulla bassa tensione 73/23/EG e la direttiva EMC 89/336/EG.”

Ytterligare information: “Produkten uppfyller kraven enligt lägspanningsdirektiver 73/23/EEC och EMC-direktiv 89/336/EEC.”

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is Toshiba Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

松下 CD-R/RW ドライブ UJDA310L 安全にお使いいただくために

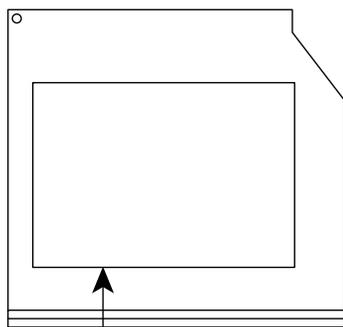
本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で
“クラス1レーザー機器” に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全本性に關する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

Location of the required label



MANUFACTURED:
SERIAL NO.

COMPLIES WITH FDA RADIATION
PERFORMANCE STANDARDS, 21 CFR
SUBCHAPTER J. 130KMT

Manufactured by Kyusyu Matsushita
Electric Co., Ltd.
1-62, 4-Chome Minoshima Hakata-Ku
Fukuoka, Japan

東芝 CD-ROM ドライブ XM-1902B 安全にお使いいただくために

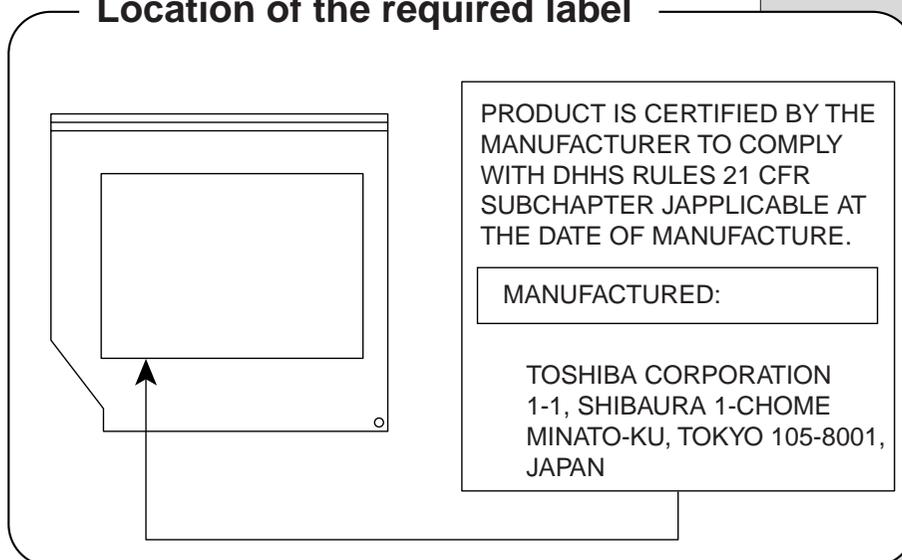
本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で
“クラス1レーザー機器” に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1 PRODUKT
TO EN 60825-1
クラス1レーザー製品

Location of the required label



TEAC CD-ROM ドライブ CD-224E 安全にお使いいただくために

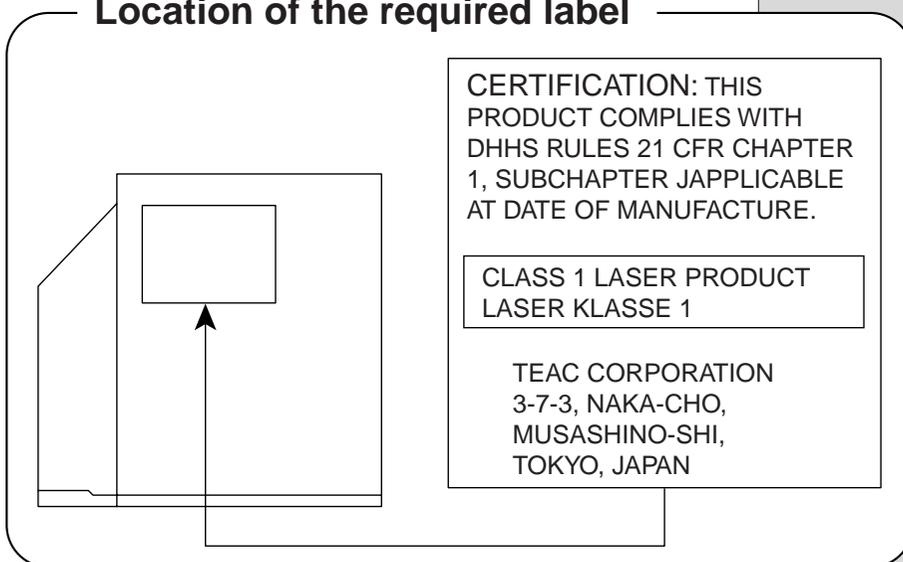
本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で
“クラス1レーザー機器” に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1 EN60825-1:94

Location of the required label



東芝 DVD-ROM ドライブ SD-C2402 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で
“クラス1レーザー機器” に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全本性に關する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
APPAREIL À LASER DE CLASSE 1
LASER KLASSE 1 PRODUKT
TO EN 60825-1
クラス1レーザー製品

CAUTION

VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. DO NOT STARE INTO BEAM OR VIEW DIRECTLY WITH OPTICAL INSTRUMENTS.

ATTENTION

RAYONNEMENT VISIBLE ET INVISIBLE LASER EN CAS D'OUVERTURE. NE PAS REGARDER DANS LE FAISCEAU. NI À L'OEIL NI NI À L'AIDE D'INSTRUMENTS D'OPTIQUE.

VORSICHT

SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG WENN ABDECKUNG GEOFFNET. NICHT IN DEN STRAHL BLICKEN AUCH NICHT MIT OPTISCHEN INSTRUMENTEN.

注 意

ここを開くと可視レーザー光及び不可視レーザー光が出ます。ビームを直接見たり触れたりしないこと。光学機器で直接ビームを見ないこと。

ADVARSEL

SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. SE IKKE IND I STRÅLEN-HELLER IKKE MED OPTISKE INSTRUMENTER.

ADVARSEL

SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. STIRR IKKE INN I STRÅLEN ELLER SE DIREKTE MED OPTISKE INSTRUMENTER.

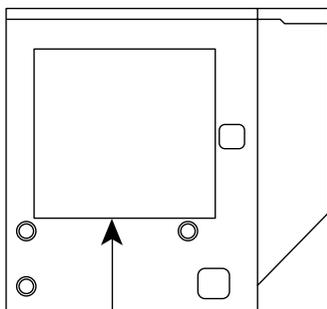
VARO!

AVATTAESSA OLET ALTTINA NÄKYVÄÄ JA NÄKYMÄTÖN LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ TUJOTA SÄTEESEEN ÄLÄKÄ KATSO SITÄ OPTISEN LAITTEEN LÄPI.

VARNING

SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STIRRA EJ IN I STRÅLEN OCH BETRAKTA EJ STRÅLEN MED OPTISKA INSTRUMENT.

Location of the required label



PRODUCT IS CERTIFIED BY THE MANUFACTURER TO COMPLY WITH DHHS RULES 21 CFR SUBCHAPTER J APPLICABLE AT THE DATE OF MANUFACTURE.

MANUFACTURED:

TOSHIBA CORPORATION
1-1, SHIBAURA 1-CHOME
MINATO-KU, TOKYO 105-8001,
JAPAN

Trademarks

- ・ Microsoft、MS-DOS、Windows は、米国 Microsoft 社の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ SmartMedia、スマートメディアは（株）東芝の商標です。
- ・ PS/2、XGA は、IBM Corporation の商標または登録商標です。
- ・ SoundBlaster は米国 Creative Technology 社の商標です。
- ・ K56flex は、Lucent Technologies と Rockwell Semiconductor Systems の登録商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

お願い

- ・ 本書の内容の一部または全部を、無断で転載することは禁止されています。
- ・ 本書の内容は、予告なしに変更することがあります。
- ・ 記憶装置（ハードディスク、フロッピーディスクなど）に記録された内容は故障や障害の原因にかかわらず保証いたしかねます。
- ・ 本製品にプレインストールされているシステム（OS）以外をインストールした場合の動作保証はいたしかねます。
- ・ ご購入時に決められた条件以外での、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。お取り扱いにはご注意願います。
- ・ パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、お使いの機種を確認後、お近くの保守サービスにご依頼ください。パスワードの解除を保守サービスにご依頼される場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様ご自身を確認できる物）の提示が必要となります。

本書の内容について万一不可解な点や誤りなど、お気づきの点がございましたら、東芝 PC ダイヤル（巻末参照）までご一報ください。

お使いになる前に本体同梱のお客様登録カードに必要事項をご記入のうえ、返送してください。

保証書は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

表記について

本製品のマニュアルは、次のきまりに従って書かれています。

記号の意味



・ 誤った取り扱いをすると、人が死亡する、または重傷を負う可能性があることを示します。



・ 誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性、または物的損害のみが発生する可能性があることを示します。



・ データの消失や、故障や性能低下を起こさないために守ってほしいこと、仕様や機能に関して知っておいてほしいことです。



・ 知っておくと便利なことを説明しています。



・ 覚えておくと役に立つ用語を説明しています。



この取扱説明書や他の説明書への参照先を示しています。

「この取扱説明書の参照先」

『他の説明書への参照先』

《オンラインマニュアルへの参照先》

(注) 補足説明をしています。

画面の表し方

画面の全部、または一部を表します。

【例】

Total = x x x x KB

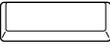
—このように画面または本文中の文字を x で表している場合は、実際にはさまざまな数字や記号が入ります。

入力するキー

操作で入力するキーを本文中で表すときには、説明に必要な部分だけを  で囲んで書いています。

 キーを押す  を押してください。

 キーを押す  を押してください。

 キーを押す  (スペースキー) を押してください。

操作の表現

操作や作業は、次のように示します。

【例】

操作が1つで済む場合は、次のように示します。

 キーを押す

キーを「+」でつないで書いてあるときは、前のキーを押したまま離さずに次のキーを押してください。

 +  キーを押す

この場合は、 キーを押したまま  キーを押します。

用語について

本書では、次のように定義します。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

..... アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows 98 Microsoft® Windows®98 SECOND EDITION operating system 日本語版を示します。

MS-IME Microsoft® IME2000 を示します。

DVD モデル DVD-ROM 装置が内蔵されているモデル (DB60P/4DA) を示します。

CD-RW モデル CD-RW 装置が内蔵されているモデル (DB60P/4RA) を示します。

CD-ROM モデル ... CD-ROM 装置が内蔵されているモデル (DB50C/SCA) を示します。

パソコンの準備

1. パソコンの置き場所

⚠ 警告

- ・水などの液体がかかったり、直射日光の当たる場所に置かないでください。ショート、発煙のおそれがあります。

⚠ 注意

- ・ぐらついた台の上やかたむいた所など、不安定な場所に置かないでください。パソコンが落ちたり、倒れたりしてケガをするおそれがあります。

パソコンを置く環境をととのえることによって、お使いになる人の疲れを少なくすることができます。また、本製品をより長い間お使いいただけます。ここでは、安全に、より快適に本製品をお使いいただく環境について説明します。



- ・ステレオスピーカなど、強い磁気を発するもののそばに置かないでください。そのまま使用するとデータが消失するおそれがあります。



設置する環境

温度は 5 ~ 35 、湿度は 20 ~ 80% の環境にする
急速に温度や湿度が変化するような環境は避ける
暖房器具などの熱いものの近くには置かない
腐食性の薬品のそばに置かない
適当な高さや距離をおき、平らな場所に置く
眼精疲労を避けるために、ディスプレイが目の高さより低くなるように設置してください。
パソコン本体に向かって正面に座り、マウスなどの周辺機器を操作するのに適当な場所を確保する
ディスプレイの角度を調節しやすくするために、パソコン本体の背面をある程度空けておく
明るさと広い視界を得るために、ディスプレイの角度を調節してください。
換気のために、パソコン本体の周囲に適当なスペースを確保する
インターネットに接続するなら、電話線接続口の近くに置く

使うときの姿勢

キーボードが肘よりも少し下にくるように椅子の高さを調節する
おしりよりも膝が少し高くなるように座る
背筋が曲がらないように、椅子の背もたれを調節する
膝と肘はほぼ 90 度になるように、まっすぐ座る
前に屈んだり、背もたれによりかかたりしないで使用してください。

健康のために気をつけたいこと

リラックスした姿勢で座る
肩や首が疲れないように、背中を楽にするために、椅子やマウスなどを正しい位置に置いてください。
適度に姿勢を変える
時々立ち上がってストレッチする
1 日に何度も手首と首を動かしたりのばしたりしてください。
長時間画面を見続けられないようにする
15 分ごとに 30 秒ぐらいの割合で遠くを見てください。
一度の休憩は短くても良いので、なるべく回数を多くとる
30 分に 2 ~ 3 分とるのが理想的です。

2. 電源につなぐ

警告

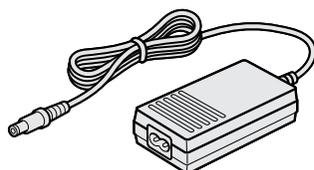
- ・付属の電源コードでは、AC100V以外の電源コンセントには絶対に電源プラグを差し込まないでください。発煙、火災のおそれがあります。
- ・海外で使用する場合は、別途電源コードをお買い求めください。
- ・傷ついたり、破損したり、加工した電源コードや電源プラグは使わないでください。感電、火災、やけどのおそれがあります。
- ・必ず本体付属の AC アダプタを使用してください。
本体付属以外の AC アダプタをご使用になりますと、電圧や(+)(-)の極性が異なることがあるため、火災、破裂、発煙のおそれがあります。
- ・電源コードを無理に折り曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、重いものをのせたりしないでください。ショート、断線による火災や感電のおそれがあります。

注意

- ・電源コードのプラグを電源コンセントから抜く場合は、必ずプラグ部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張ると、コードが破損し、火災や感電のおそれがあります。
- ・ぬれた手で電源コードの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。
- ・電源プラグをコンセントから抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが破損し、火災や感電のおそれがあります。電源プラグを持って抜いてください。

AC アダプタ

パソコン本体に電源を供給する機器です。電源コネクタに接続します。



仕様は次のとおりです。

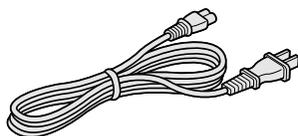
入力	DVDまたは CD-RWモデル	AC100V~240V、1.50A~0.85A、50/60Hz
	CD-ROMモデル	AC100V~240V、0.95A~0.55A、50/60Hz
出力	DVDまたは CD-RWモデル	15V、4A
	CD-ROMモデル	15V、3A



- ・AC アダプタをパソコン本体に接続しないときは、電源コードをコンセントから抜いてください。

電源コード

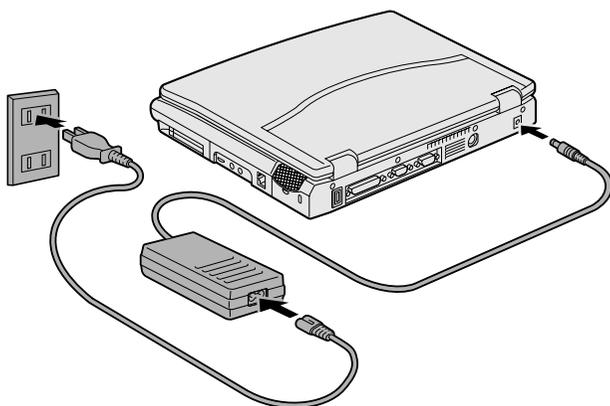
電源コンセントから、ACアダプタに電源を供給するケーブルです。



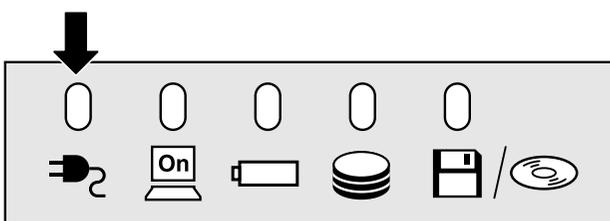
ACアダプタに接続します。

国内向け(100V)の仕様ですので海外では使用できません。日本以外で本製品を使用する場合は、電源に合った電源コードをお買い求めください。

パソコン本体に電源を供給するときは、バッテリーパックを必ず取り付けておいてください。ACアダプタ、電源コードの接続は、次の図の順に行います。はずすときは逆の順で行います。



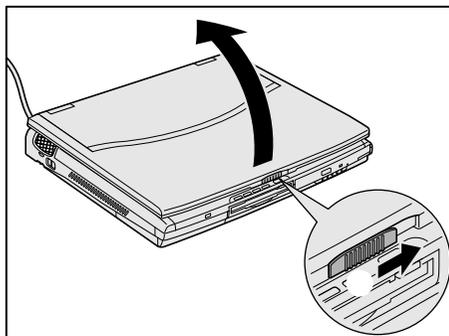
電源コードを接続したら、DC IN LED が点灯するのを確認してください。



電源コードが接続できたら、ディスプレイを開きます。

ディスプレイ開閉ラッチをスライドします。

両手を使って、ディスプレイをゆっくり起こしてください。



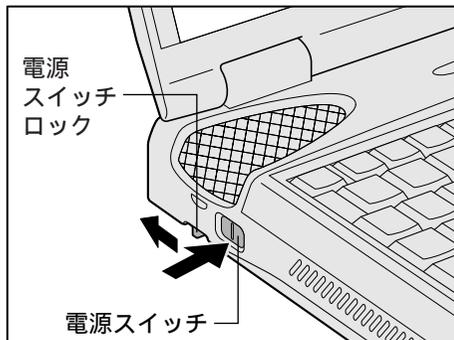
初めてパソコンを使うときには

1. 電源を入れる

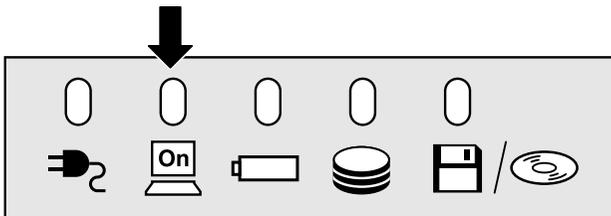
初めて電源を入れるときには、次の手順で行なってください。

1 電源スイッチロックを解除する

2 電源スイッチを押す



次のLEDの点灯を確認してください。



用語

・LED

電流を流すと発光する、発光ダイオード (Light Emitting Diode) のこと。

本製品では、装置の動作状況を表すインジケータを指す。

2. Windows 98 のセットアップ

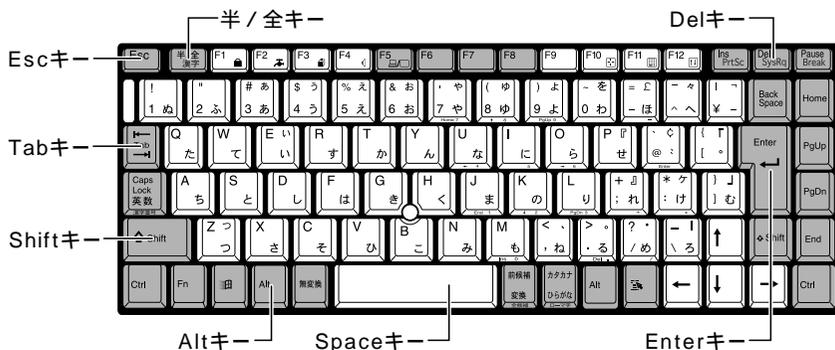
パソコンの電源を初めて入れたときには、ウィンドウズWindowsが使えるようにするために「Windows セットアップ」という操作が必要です。

1度Windowsのセットアップをすれば、以降は、電源を入れるとすぐにパソコンを使うことができます。

また、カスタム・リカバリCDでシステムの復元を行なった場合にも、「Windows セットアップ」の作業が必要です。その場合、周辺機器は取りはずし、ACアダプタと電源コードのみを接続した状態でセットアップを行なってください。

 **参照** カスタム・リカバリCDについて ▶ 『困ったときは2章 再セットアップ』

セットアップには、キーボードとコントロールボタンの操作が必要です。



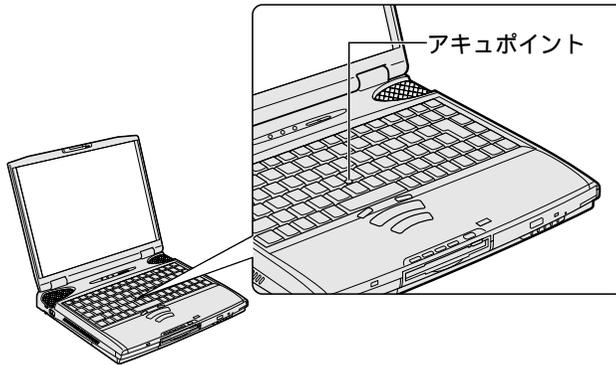
メモ

・お使いになるWindowsの管理番号を、「Product Key」といいます。Product Keyはパソコン本体に貼られているラベルに印刷されています。このラベルは絶対になくさないようにしてください。再発行はできません。紛失した場合、Microsoft社からの保守が受けられなくなります。

アキュポイント の使い方

画面上にある矢印マーク  をマウスポインタといいます。

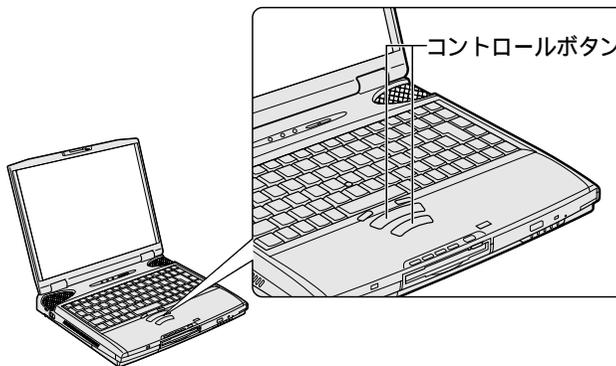
マウスポインタは、アキュポイント で動かします。アキュポイント に指を置き、押さえながら上下左右に動かすと、マウスポインタが移動します。



 アキュポイント の詳しい使い方 ▶「2章 2 基本操作を覚えよう」

クリック

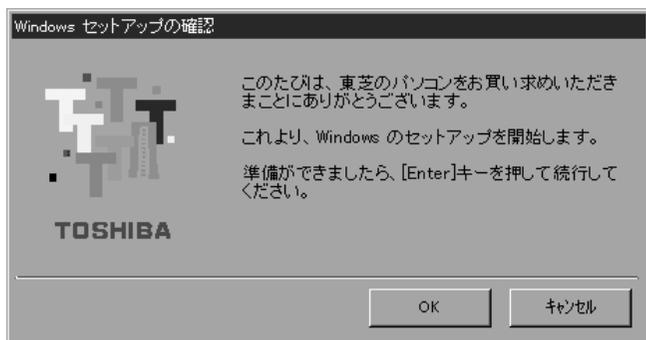
マウスポインタを、画面上の選択したい項目にあわせ、コントロールボタンの上ボタンを1回押すことをクリックといいます。よく使う操作なので、覚えてください。



 コントロールボタンの詳しい使い方 ▶「2章 2 基本操作を覚えよう」

次の手順に従って、セットアップを行なってください。

初めて電源を入れると、[Windowsセットアップの確認]画面が表示されます。



1 (Enter)キーを押す

Windows のセットアップが開始されます。

パソコンが再起動し、[Windows パスワードの入力]画面が表示されます。

[Windows パスワードの入力]画面が表示されなかった場合は、[ようこそ]画面が表示されます。その場合は、手順 5 に進んでください。

2 ユーザー名を入力する

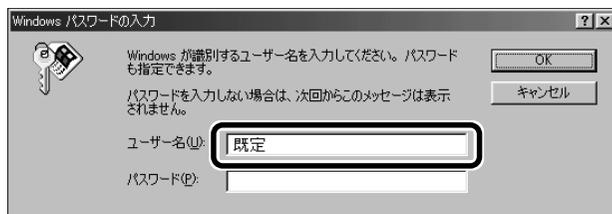
(Shift) + (Tab)キーを押すと、カーソルがユーザー名に移動します。

(Del)キーを押して「既定」を削除してください。

ユーザー名はひらがな、漢字、半角英数文字が使用できます。

ひらがなや漢字を入力するには、日本語入力システムを起動します。本製品には MS-IME が用意されています。

(Alt)キーを押したまま、(半/全)キーを押してください。



ひらがなや漢字の入力のしかた

標準状態での入力方法は、ローマ字入力です。

【例】“ なかた ” または “ 中田 ” と入力する場合

1 (N)(A)(K)(A)(T)(A) とキーを押す

“ なかた ” と表示されます。入力ミスをした場合は、(BackSpace)キーを押して入力ミスした文字を削除します。

2 ひらがなのままでよい場合は、(Enter)キーを押す

“ なかた ” で確定されます。

漢字に変換する場合は(Space)キーを押し、目的の漢字が表示されたら、(Enter)キーを押す

(Space)キーを押すたびに、漢字の候補が表示されます。(Enter)キーを押すと、選択した漢字で確定します。



・「Windowsセットアップ」中は、電源を切らないでください。

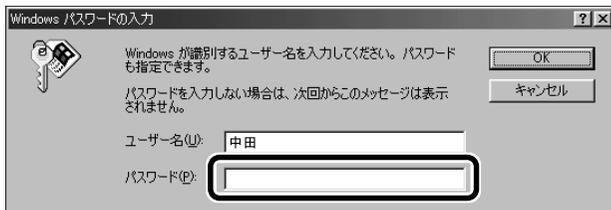


・「Windowsセットアップ」を行う前に、30分以上アキュポイント やキーを動かさなかった場合、画面に表示される内容が見えなくなりますが、故障ではありません。再度表示するには、(Shift)キーを押すか、アキュポイント を動かしてください。

3 パスワードを入力する

ユーザー名の入力が終わった後、**(Tab)**キーを押します。

パスワードには次の文字（半角英数文字）が使用できます。4～8文字を目安に設定してください。ひらがなや漢字は入力できません。



使用できる文字	アルファベット（半角）	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字（半角）	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号（単独のキーで入力できる文字の一部）	_ ^ @ [] ; : , . / （スペース）
使用できない文字	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全角文字（2バイト文字） ・ 日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など ・ 単独のキーで入力できない（入力するときに(Shift)キーなどを使用する）文字 【例】 （パーチカルライン）、&（アンド）、（チルダ）など ・ ￥（エン） ⌵ キーや ⌴ キーを押すと￥が入力されます。 	

入力したパスワードは「****」で表示されます。

パスワードは間違いのないように入力してください。入力ミスをした場合は、**(BackSpace)**キーを押して入力ミスした文字を削除します。パスワードの入力が終わったら、**[OK]**ボタンをクリックします。

[Windows パスワードの設定] 画面が表示されます。

4 登録したパスワードをもう一度入力し、[OK] ボタンをクリックする



[ようこそ] 画面が表示されます。入力したパスワードが間違っている場合は、メッセージが表示されますので、[OK] ボタンをクリックしてメッセージを消した後、パスワードをもう一度入力し直してください。

登録したパスワードを正しく入力できない場合

- 1 (Del) キーで [新しいパスワードの確認入力] のパスワードをすべて削除する
- 2 (Shift) キーと (Tab) キーを同時に押す
カーソルが [新しいパスワード] に戻ります。
- 3 (Del) キーを押して、いったんパスワードをすべて削除する
- 4 新しいパスワードを入力する
- 5 (Tab) キーを押す
- 6 [新しいパスワードの確認入力] に同じパスワードを入力する
- 7 [OK] ボタンをクリックする

5 (Esc) キーを押す



MS-IME のチュートリアルに進み、入力の練習を行う場合は (M) キーを押してください。入力の練習を行わなかった場合、または練習が終了したあとに、[Windows 98 へようこそ] 画面が表示されます。

6 名前とふりがなを入力して、[次へ] ボタンをクリックする

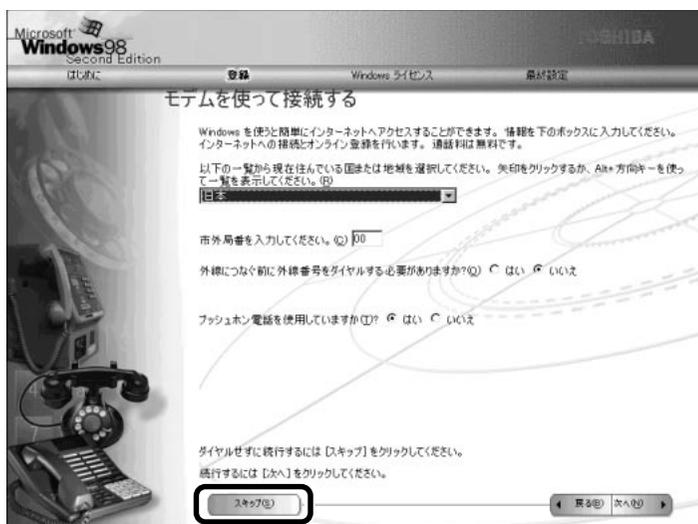


名前は必ず入力してください。ふりがなは省略できます。ふりがなを入力するには、名前を入力した後、(Tab)キーを押します。

ひらがなや漢字を入力するには、日本語入力システム (MS-IME) を起動します。(Alt)キーを押したまま、(半/全)キーを押してください。

[モデムを使って接続する] 画面が表示されます。ここではインターネット (モデム) への接続は行いません。インターネットへの接続とオンライン登録は、セットアップ終了後に行えます。

7 [スキップ] ボタンをクリックする



[ダイヤルのキャンセル] 画面が表示されます。



・ひらがなや漢字の入力のしかたについては、手順2をご覧ください。

- 8** 画面の [はい] をチェック (左側の 印をクリック) して、
[次へ] ボタンをクリックする



[Windows ユーザー使用許諾契約] 画面が表示されます。

- 9** 画面の [同意する] をチェック (左側の 印をクリック) して、
[次へ] ボタンをクリックする

契約内容を、必ずお読みください。表示されていない部分を見るには、
 ボタンをクリックするか、(PgUp) キー、(PgDn) キーを使って画面
を動かしてください。なお、契約に同意しなければ、セットアップを続行
することはできません。



[セットアップの完了] 画面が表示されます。

10 [完了] ボタンをクリックする



[日付と時刻のプロパティ] 画面が表示されます。

11 [日付] と [時刻] が正しく設定されているか確認する



正しく設定されていない場合は設定してください。

設定後、[適用] ボタンをクリックすると、日付および時刻の設定が確定され、パソコンの時計が動作します。



- 変更する項目にマウスポインタをあわせてクリックすると、項目が反転表示されて入力できます。

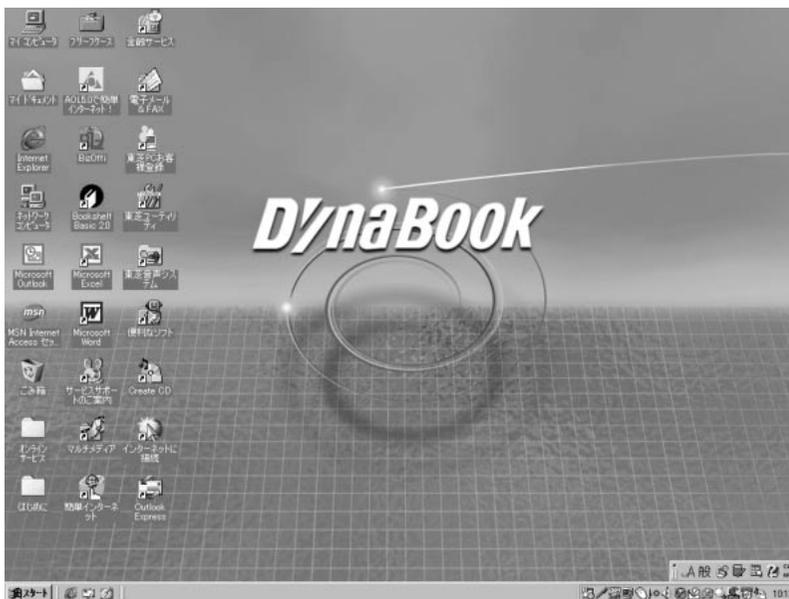
- 12** [タイムゾーン] で「(GMT+09:00) 東京、大阪、札幌」が選択されていることを確認して、[閉じる] ボタンをクリックする



「(GMT+09:00) 東京、大阪、札幌」が選択されていない場合は、 ボタンをクリックし、一覧から選択してください。

[日付] [時刻] [タイムゾーン] を変更した場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。

Windows のセットアップが終了し、デスクトップ画面が表示されます。



(表示例)

 デスクトップについて ▶ 「2章 1 デスクトップとは」

Windows の使い方

Windows の使い方については、同梱されている『ファーストステップガイド Microsoft Windows 98 SECOND EDITION』をご覧ください。

3. ユーザ登録をする

本製品をお使いになるにあたって、東芝とMicrosoft社のユーザ登録を行なってください。今後のサービス・サポートが受けられます。

東芝へのユーザ登録

同梱されている登録はがき、またはインターネットで登録できます。まだパソコンの操作に慣れていない方には、はがきでの登録をおすすめします。

インターネットで登録する場合は、パソコンの内蔵モデムをモジュラーケーブルで電話回線につなぎ、インターネットに接続する必要があります。

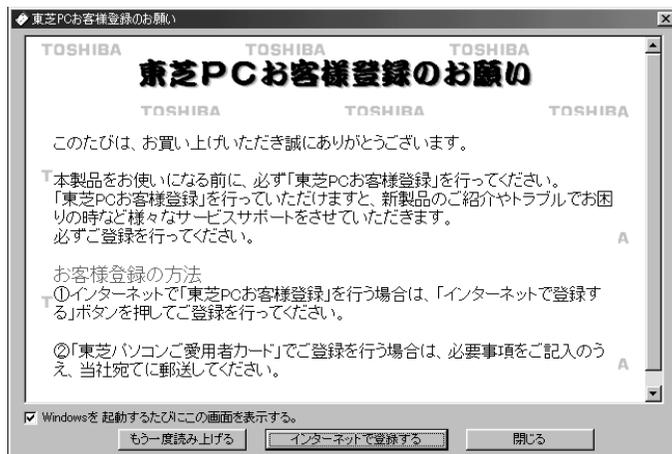
 「5章 9 内蔵モデム」、『インターネットに接続しよう!』

インターネットをご利用になるには、プロバイダとの契約が必要です。

初めて、インターネットをご利用になる場合

[スタート]-[プログラム]-[東芝PCお客様登録のお願い]-[東芝PCお客様登録のお願い]をクリックする

次の画面が表示されます。



[東芝PCお客様登録のお願い]画面で[インターネットで登録する]をクリックする

この場合、インターネットプロバイダ「infoPepper」に入会することになります。接続した時間などに応じて、料金がかかりますので、あらかじめご了承ください。[東芝PCお客様登録のお願い]の下部にある[Windowsを起動するたびにこの画面を表示する。]のをクリックしてチェックをはずすと、次回Windowsが起動したときは、[東芝PCお客様登録のお願い]は表示されません。

すでに他のプロバイダに入会している場合

インターネットに接続するための設定を行なったあと、次のアドレスを入力し、表示された画面から登録を行う

<http://www5.toshiba.co.jp/tpmc/nkhh.htm>

Microsoft社へのユーザ登録

インターネットで登録できます。

インターネットで登録する場合は、パソコンの内蔵モデムをモジュラーケーブルで電話回線につなぎ、インターネットに接続する必要があります。

 「5章 9 内蔵モデム」、『インターネットに接続しよう!』

[スタート]-[プログラム]-[アクセサリ]-[システムツール]-[Windows
へようこそ]で[今すぐ登録]をクリックする

4. 電源を切る

Windowsのセットアップが終わったら、すぐにパソコンをお使いになれますが、ひとまずWindowsを終了して電源を切ってみましょう。

画面左下の[スタート]ボタンから行います。



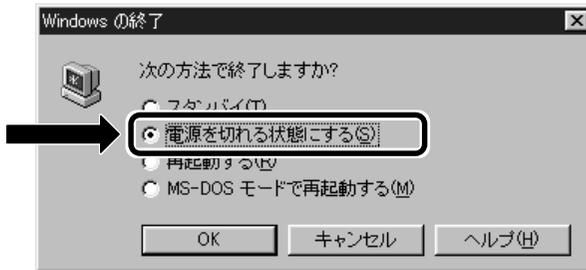
1 画面左下にある[スタート]ボタンをクリックする

2 [Windowsの終了]をクリックする



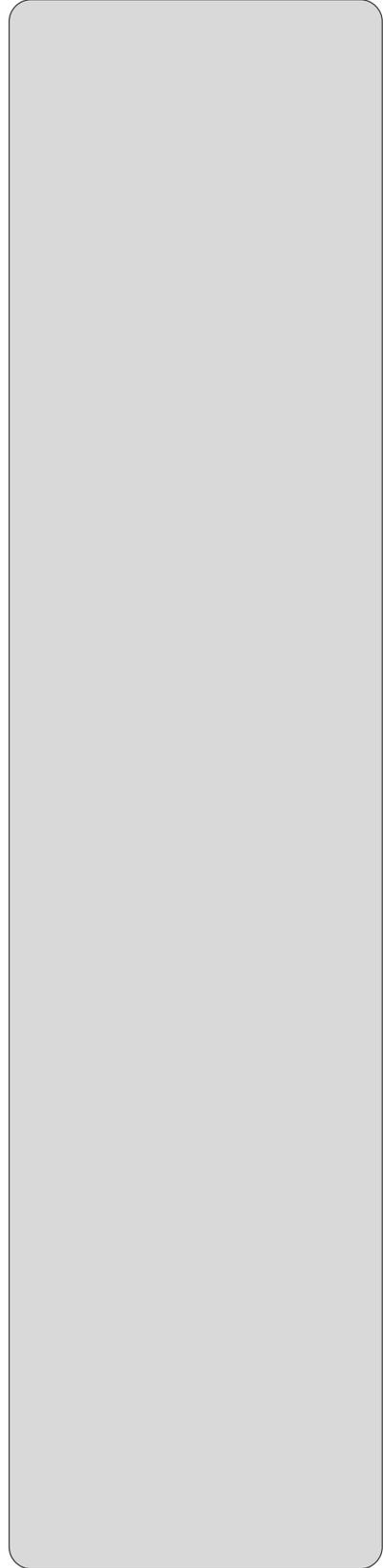
[Windowsの終了]画面が表示されます。

- 3** [電源を切れる状態にする(S)]の  がチェックされていることを確認して、[OK] ボタンをクリックする



画面が暗くなり、パソコン本体の Power  LED が消えます。
次に電源を入れるときには、Windows が起動します。

 電源を入れる ▶ 「1 章 1 電源を入れる」



1 章

電源を入れる / 切る

パソコンの電源を入れる / 切る
いろいろな方法について説明します。

- 1** 電源を入れる 36
- 2** 電源を切る 38
- 3** 作業を中断する 39
- 4** 簡単に電源を切る
/ 作業を中断するとき 42

1

電源を入れる

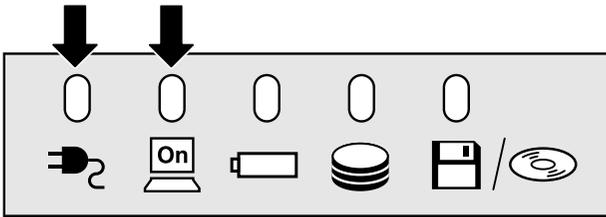
⚠ 注意

・パソコンの電源を長い間入れていると、パソコン本体の表面が熱を帯びます。長い間に渡って、素肌が直接接触れないようにしてください。長い間触れていると、低温やけどになるおそれがあります。

ここでは、Windowsのセットアップを終えた後、電源を入れる方法について説明します。

電源に関する表示

次の図で矢印の付いているものが、電源に関する表示です。

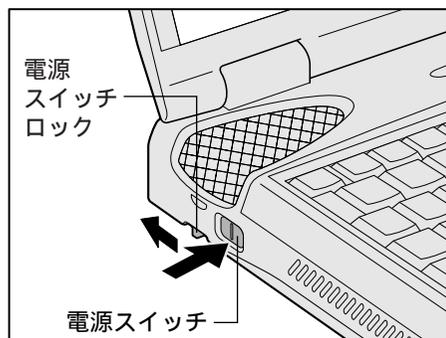


それぞれの意味は次のとおりです。

	LEDの状態	パソコン本体の状態
DC IN LED	緑の点灯	ACアダプタを接続している
	オレンジの点滅	異常警告 ACアダプタ、バッテリー、またはパソコン本体の異常
	消灯	ACアダプタを接続していない
Power LED	緑の点灯	電源ON
	オレンジの点灯	スタンバイ中
	消灯	電源OFF

操作手順

- 1 フロッピーディスク装置に何もセットされていないことを確認する
- 2 周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を入れる
- 3 電源スイッチロックを解除し、Power LED が点灯するまで、電源スイッチを押す
Power LED が緑色に点灯します。



その後、Windowsの起動画面が表示されます。

スタンバイまたはハイバネーション機能を実行していた場合は、実行する直前の状態が再現されます。

 **参照** スタンバイ / ハイバネーション機能について

▶ 「本章 3 作業を中断する」

パネルスイッチ機能を設定していた場合、ディスプレイを開けると、自動的に電源が入ります。

 **参照** パネルスイッチ機能について

▶ 「本章 4 簡単に電源を切る / 作業を中断するとき」

4 電源スイッチロックを有効（右側）にする

操作中に誤って電源スイッチを押してしまわないように、電源スイッチロックを必ず有効にしておいてください。

パソコンの設定によっては、メッセージが表示されます。

パスワードを設定している場合

パスワードを設定している場合は、電源を入れると次のメッセージが表示されます。

Password =

設定したパスワードを入力し、**(Enter)**キーを押してください。

 **参照** パスワードについて ▶ 『活用編 1 章 2-Toshiba Hardware Setup』

メッセージが表示される場合

 **参照** 不明なメッセージについて

▶ 『困ったときは 1 章 2-10 不明なメッセージが出た！』



- ・ハイバネーション機能を実行している場合は、電源を入れた直後に表示されます。
- ・パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。

2

電源を切る

⚠ 注意

- Disk LED または FDD/CD-ROM LED が点灯中は、電源を切ったり、フロッピーディスク装置のイジェクトボタンや CD-ROM 装置 / CD-RW 装置 / DVD-ROM 装置のイジェクトボタンを押したりしないでください。データが消失するおそれや、フロッピーディスク装置、CD-ROM 装置 / CD-RW 装置 / DVD-ROM 装置が壊れるおそれがあります。
- パソコン本体や周辺機器の電源は、切った後すぐには入れないでください。十分に放電するまで、しばらく待ってください。
- ディスプレイを閉じる場合は、静かに閉じてください。ディスプレイを強く閉じると、衝撃でパソコン本体が故障するおそれがあります。

Windows を終了して、パソコン本体の電源を切ることを「シャットダウン」といいます。必ず手順に従って電源を切ってください。

周辺機器の電源は、パソコンの電源を切った後に切ってください。

作業を中断したときの状態をいったん保存して、またすぐに使う場合は、スタンバイ機能 / ハイバネーション機能を実行することができます。

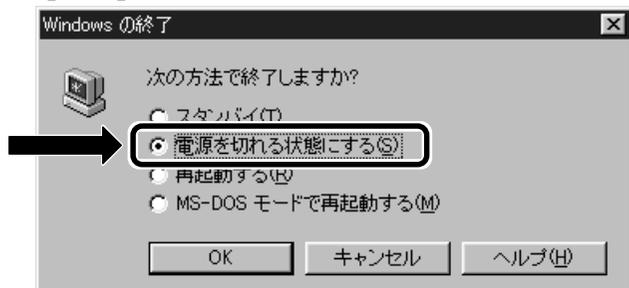
 **参照** スタンバイ / ハイバネーション機能について ▶ 「本章 3 作業を中断する」

1 データを保存し、アプリケーションを終了する

2 [スタート] - [Windows の終了 (U)] をクリックする



3 [電源を切れる状態にする (S)] がチェックされていることを確認し、[OK] ボタンをクリックする



3

作業を中断する

⚠ 注意

- ・本製品の「スタンバイ中」とは、電源がオンの状態で表示画面をオフにし、CPUおよび他のデバイスが休止している状態です。この状態のとき、バッテリーや増設メモリの取り付け / 取りはずしは行わないでください。データの消失や感電、故障のおそれがあります。

スタンバイ機能 / ハイバネーション機能を実行すると、作業を中断したときの状態から、すぐに使うことができます。

スタンバイ機能

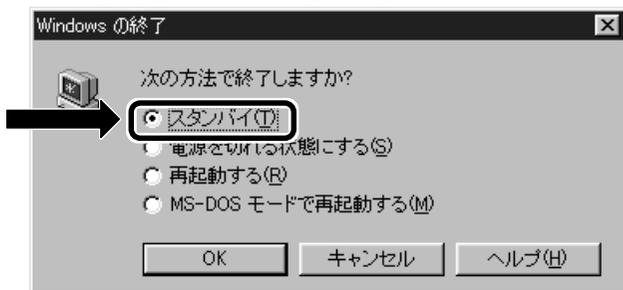
作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源を入れると、状態を再現することができます。

スタンバイ機能を実行するとすばやく状態が再現されますが、ハイバネーション機能を実行したときよりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切ってしまうとデータは消失しますので、スタンバイ機能を実行する場合は、ACアダプタを取り付けてお使いになることをおすすめします。

1 [スタート] - [Windows の終了 (U)] をクリックする



2 [スタンバイ (T)] を選択し、[OK] ボタンをクリックする



1 章

電源を入れる / 切る



- ・スタンバイまたはハイバネーション機能を設定していない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。データが消失するおそれがあります。

ハイバネーション機能

作業を中断したときの状態をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入ると、状態を再現することができます。パソコンをバッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使用する場合は、ハイバネーション機能を使用することをおすすめします。

1 ハイバネーション機能を有効に設定する

[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする

[電源の管理]をダブルクリックする

[休止状態]タブで[休止状態をサポートする]をチェック(☑)する

ハイバネーション機能が有効になります。

2 [スタート] - [ハイバネーション] をクリックする



・ハイバネーション機能を実行するときは、メモリ内容をハードディスクに書き込んだ後に、電源が切れます。

その間、Disk LEDが点灯しますので、LEDの点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。

こんなときは

誤ってハイパネーション機能を実行してしまった場合、(BackSpace)キーでキャンセルすることができます。ハイパネーション機能を実行すると、1度画面が暗くなってから次の画面が表示されます。



画面が表示される前に(BackSpace)キーを押すと、1度画面が暗くなってから、元の画面に戻ります。画面が表示中に(BackSpace)キーを押すと、ハイパネーション機能は中断され、元の画面に戻ります。

[スタート]メニューから以外にも、電源スイッチを押したとき、ディスプレイを閉じたとき、キーボードのキーを押したときにもスタンバイ機能 / ハイパネーション機能を実行することができます。

その場合は、設定が必要です。

 設定について ▶ 「本章 4 簡単に電源を切る / 作業を中断するとき」

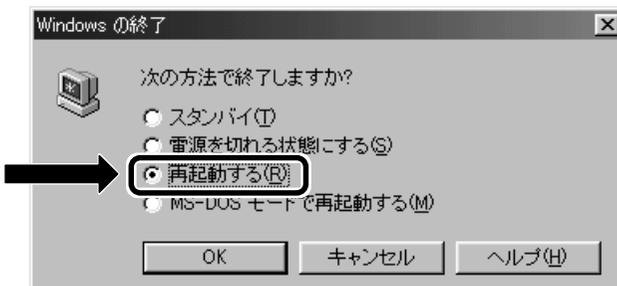
再起動とは

いったんWindowsを終了した後、すぐにもう一度起動することを再起動といいます。パソコンの設定を変えたときや、パソコンがスムーズに動かなくなってしまったときなどに行います。

1 [スタート] - [Windows の終了 (U)] をクリックする



2 [再起動する (R)] を選択し、[OK] ボタンをクリックする



[スタート]メニューから電源を切る、または作業を中断する以外にも、電源スイッチを押したとき、ディスプレイを閉じたとき、キーボードのキーを押したときに、シャットダウン、スタンバイ / ハイバネーション機能を実行することができます。

電源スイッチを押す

ハイバネーション機能を使用するには、あらかじめ次のように設定します。

- [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする
- [電源の管理]をダブルクリックする
- [休止状態]タブで[休止状態をサポートする]をチェック(☑)する

ハイバネーション機能が有効になります。

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする
- [省電力]をダブルクリックする
- [電源設定]タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細]ボタンをクリックする
- [動作]タブで「スタンバイ」「ハイバネーション」「シャットダウン」のいずれかを選択する

2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

ディスプレイを閉じる

ディスプレイを閉じると電源を切る、または作業を中断することを、パネルスイッチ機能といいます。スタンバイ機能、またはハイバネーション機能を設定できます。

ハイバネーション機能を使用するには、あらかじめ次のように設定します。

- [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする
- [電源の管理]をダブルクリックする
- [休止状態]タブで[休止状態をサポートする]をチェック(☑)する

ハイバネーション機能が有効になります。

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする
- [省電力]をダブルクリックする
- [電源設定]タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細]ボタンをクリックする
- [動作]タブで「スタンバイ」「ハイバネーション」「シャットダウン」のいずれかを選択する

2 ディスプレイを閉じる

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。
次にディスプレイを開くと、自動的に電源が入ります。

Fn + F3 キーを使用する

ハイバネーション機能を使用するには、あらかじめ次のように設定します。

[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする

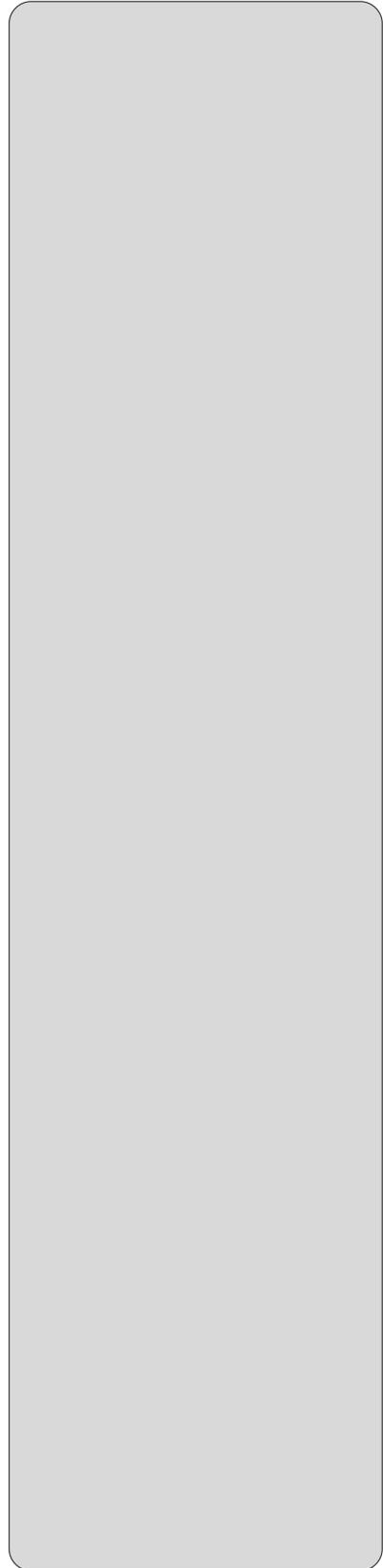
[電源の管理]をダブルクリックする

[休止状態]タブで[休止状態をサポートする]をチェック(☑)する

ハイバネーション機能が有効になります。

1 Fn+F3 キーを押す

Fn キーを押したまま、F3 キーを押し、「スタンバイ」「ハイバネーション」「シャットダウン」のいずれかを選択した後、Fn キーを離します。
選択した方法で電源を切る、または作業を中断します。



2 章

パソコンをさわってみよう

Windows の基本操作について説明します。
はじめて Windows をお使いになる方はお読みください。

- 1 デスクトップとは 46
- 2 基本操作を覚えよう 47
- 3 ウィンドウを開いてみよう 48
- 4 ファイルやフォルダを作ってみよう 49
- 5 ファイルやフォルダをコピーしよう 55
- 6 ファイルやフォルダを削除しよう 57

1 デスクトップとは

パソコンに表示される画面全体をデスクトップといいます。

デスクトップとは「机の上」のことで、画面全体を机、パソコンを使って動かすものを文房具などの道具にたとえた言い方です。パソコンでも机の上のように、いろいろな道具を使って作業することができます。

ここでは、デスクトップに表示されているものの役割を確認しましょう。

マイ コンピューター
お使いのパソコンの構成を知ることができます。

マイ ドキュメント
自分で作った文書などを保存する場所です。

ごみ箱
いらなくなったファイルをいったんここに捨て、まとめて消去します。

アイコン
よく使うファイルが、絵のマークで表示されます。

タスクバー
現在、Windows上で作業しているものの名前が一覧表示されます。右端にはいろいろなアイコンが表示され、音量などの設定が手軽にできます。また、バッテリーの状態も確認できます。

クイック起動ボタン
通常はアイコンや[スタート]メニューから起動するものを、ボタンをクリックするだけで簡単に起動できます。

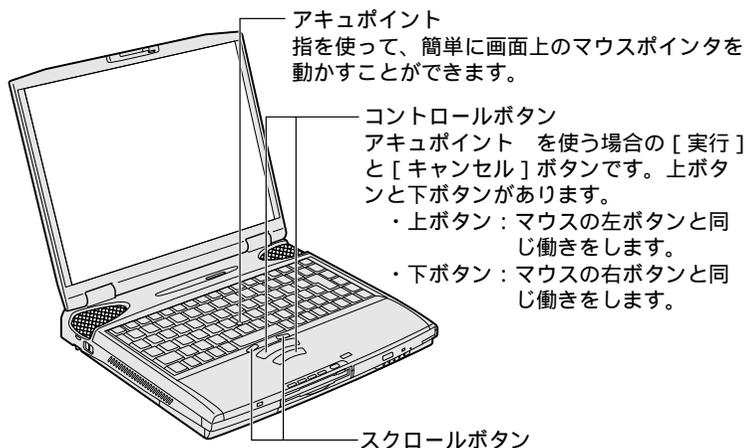
[スタート] ボタン
このボタンをクリックすると、[スタート]メニューが表示されます。マウスポインタでメニューの階層をたどってクリックすると、目的の操作を始めることができます。

MS-IMEツールバー
日本語入力システム「MS-IME」の機能を設定するボタンが表示されます。

2

基本操作を覚えよう

ここでは、画面上での操作について説明します。



アキュポイント とコントロールボタン

画面上にあるマウスポインタ () は、アキュポイント で動かします。アキュポイント に指を置き、押さえながら上下左右に動かすと、マウスポインタが移動します。

マウスポインタは、同梱されているマウスを接続して動かすこともできます。

 マウスについて ▶「5章 5 マウス」

マウスポインタを画面上の項目にあわせ、コントロールボタンで選択します。コントロールボタンでは、次の操作ができます。

クリック	コントロールボタンの上ボタンを1回押します。
ダブルクリック	コントロールボタンの上ボタンを2回続けて、「カチカチッ」とすばやく押します。アプリケーションの起動などができます。
ドラッグアンドドロップ	コントロールボタンの上ボタンを押したまま、アキュポイント でマウスポインタを動かします。画面上のアイコンなどがマウスポインタと一緒に移動します (ドラッグ)。目的の場所でボタンから指を離すと、移動中の項目がそこに配置されます (ドロップ)。
右クリック	コントロールボタンの下ボタンを1回押します。メニューが表示されます。ここでは、マウスを使うときの呼び方と同じ「右クリック」とします。

スクロールボタン

画面上では表示しきれない部分を、スクロールして見ることができます。

画面上で見えない部分があったとき、どちらかのボタンを押すと、画面の表示が移動して隠れていた部分が表示されます。



・何かが起動してしまった場合は、本章の「3 ウィンドウを開いてみよう」をご覧ください。



・次の場合、アキュポイント を操作していなくても、画面上のマウスポインタが移動することがあります。

- ・電源を入れたとき
 - ・一定の力で一定の方向にマウスポインタを移動し続け、指を離れたとき
- この場合は、マウスポインタが動かなくなるまで待つから、アキュポイント を使用してください。



・アキュポイント とPS/2マウスを同時に使用する設定をした場合、PS/2マウスの仕様によっては、アキュポイント およびPS/2マウスを同時に使用できなくなる場合があります。この場合は、PS/2マウスだけの使用に設定してください。

3

ウィンドウを開いてみよう

Windows では、一つ一つのデータや道具を窓のかたち（ウィンドウ）で開き、操作します。

「マイドキュメント」のウィンドウを開いてみましょう。

- 1 デスクトップにある [マイドキュメント] アイコン () にマウスポインタをあわせ、ダブルクリックする
[マイドキュメント] のウィンドウが開きます。

閉じるボタン——
ウィンドウを閉じます。

最大化ボタン（元のサイズに戻すボタン）——
ウィンドウを画面いっぱいに表示します。
最大化された状態のとき、同じ位置に出る元のサイズに戻すボタン () をクリックすると、ウィンドウが元の大きさに戻ります

最小化ボタン——
ウィンドウをタスクバーにおさめます。
タスクバーのウィンドウ名をクリックすると、元に戻ります。

タイトルバー——
ウィンドウの名前が表示されます。
この部分にマウスポインタをあわせてドラッグすると、ウィンドウを移動することができます。

メニューバー——
それぞれのボタンをクリックすると、メニューが表示されます。項目をクリックして、いろいろな指示を出すことができます。

ツールバー——
メニューバーのメニューの中で、よく使う指示がボタンで表示されます。

アドレスバー——
開いているウィンドウが、パソコンのどこにあるのかを表示します。

ステータスバー——
ウィンドウの状態などが表示されます。

ウィンドウ説明——
ウィンドウの名前やアイコンの内容説明が表示されます。

スクロールバー——
ウィンドウの大きさでは画面に表示しきれない部分があるときに表示されます。
バーをドラッグするか、矢印ボタン () をクリックしてスクロールすることができます。

ウィンドウの境界線にマウスポインタをあわせると、矢印が () の形に変わります。その状態でドラッグすると、ウィンドウの大きさを変えることができます。

ここからは、表示される画面全体のことを「デスクトップ」、開いたウィンドウのことを「画面」と呼びます。

パソコンのデータは、「ファイル」の単位で保存・整理します。

また、ファイルをまとめておく入れものを「フォルダ」といいます。フォルダの中にはさらにフォルダを入れて、細かく分類することができます。

先ほど開いた「マイドキュメント」もフォルダです。

Windowsは、たくさんのファイルやフォルダで構成されています。

ここでは、フォルダとファイルを自分で新しく作成し、管理する方法について説明します。

フォルダを作る

[マイドキュメント]の中に、フォルダを作ってみましょう。

- 1 [マイドキュメント]画面で、メニューバーの[ファイル]をクリックする



メニューが表示されます。

2 マウスポインタを [新規作成] にあわせる



右端の ▶ の右にメニューが表示されます。

3 [フォルダ] にマウスポインタをあわせ、クリックする



[マイドキュメント]の中に、[新しいフォルダ]が作成されます。



フォルダ名が反転表示されて確定していない場合は、[マイドキュメント]の中の何も無いところにマウスポインタを移動してクリックすると、フォルダ名がそのまま[新しいフォルダ]で確定されます。



これで、[マイドキュメント]の中に、[新しいフォルダ]を作ることができました。

ファイルを作る

フォルダを作ったら、その中にファイルを作ってみましょう。
ここでは、「テキスト文書」ファイルの作り方について説明します。

1 [新しいフォルダ] をダブルクリックする

[マイ ドキュメント] 画面が消えて、[新しいフォルダ] 画面が開きます。
中にあるフォルダを開くと、上の階層のフォルダに重なり、上の階層のフォルダ画面は自動的に閉じます。上の階層のフォルダ画面をもう一度表示させる場合は、ツールバーの [上へ] ボタン () をクリックしてください。

2 [新しいフォルダ] 画面で、メニューバーの [ファイル] をクリックする



メニューが表示されます。

3 マウスポインタを [新規作成] にあわせる



右端の ▶ の右にメニューが表示されます。

4 [テキスト文書] にマウスポインタをあわせ、クリックする



[新しいフォルダ]の中に、[新規テキスト文書]が作成されます。



ファイル名が反転表示されて確定していない場合は[新しいフォルダ]の中の何もないところをクリックして、ファイル名をそのまま[新規テキスト文書]で確定してください。

これで、[新しいフォルダ]の中に、[新規テキスト文書]ファイルを作ることができました。

フォルダやファイルに名前を付ける

フォルダやファイル名を反転表示させると、文字を入力して名前を付けることができます。

 文字の入力について ▶ 「3章 文字を入力してみよう」

フォルダやファイル名は、次の手順で反転表示できます。

- 1** フォルダやファイルのアイコンをクリックして選択する
- 2** 少し間をおいてアイコンをクリックする、またはメニューバーの[ファイル]-[名前の変更]をクリックする
フォルダやファイル名が反転表示されます。

ここでは、ファイルの名前は[新規テキスト文書]のままがかまいません。次に進んでください。



用語

- ・確定
文字を入力した後、漢字やひらがなに文字を決定して、固定すること。
いったん確定した文字は、他の文字には変わらない。
訂正したい場合は、一度削除して入力し直す。

5

ファイルやフォルダをコピーしよう

ファイルやフォルダは、簡単に複製を作る（コピーする）ことができます。ここでは、[新しいフォルダ]の中に作った[新規テキスト文書]を[マイドキュメント]フォルダにコピーしてみましょう。

1 [新しいフォルダ]画面で[新規テキスト文書]をクリックする



アイコンが反転表示されます。

2 ツールバーの[コピー]ボタン()をクリックする

画面上ではわかりませんが、Windowsの「クリップボード」という場所に、コピーした文書が蓄えられています。

3 [上へ]ボタン()をクリックする

[新しいフォルダ]画面が消えて、ひとつ上の階層にある[マイドキュメント]画面が表示されます。



4 [貼り付け] ボタン () をクリックする

[マイドキュメント] 画面の中に、コピーした [新規テキスト文書] が作成されます。



これで [新規テキスト文書] をコピーすることができました。

6

ファイルやフォルダを削除しよう

ファイルやフォルダを削除するときは、いったん[ごみ箱]フォルダに入れてから、まとめて消去します。誤ってファイルやフォルダを削除してしまっても、[ごみ箱]フォルダにあるうちは、元の場所に戻してまた使うことができます。

[マイドキュメント]にコピーした[新規テキスト文書]を削除してみましょう。

- 1 [マイドキュメント]画面で[新規テキスト文書]をクリックする



アイコンが反転表示されます。

- 2 ツールバーの[削除]ボタン()をクリックする
[ファイルの削除の確認]画面が表示されます。



- 3 [はい]をクリックする

[マイドキュメント]フォルダから[新規テキスト文書]が消えますが、ファイルはなくなったわけではありません。[ごみ箱]の中に移動しています。



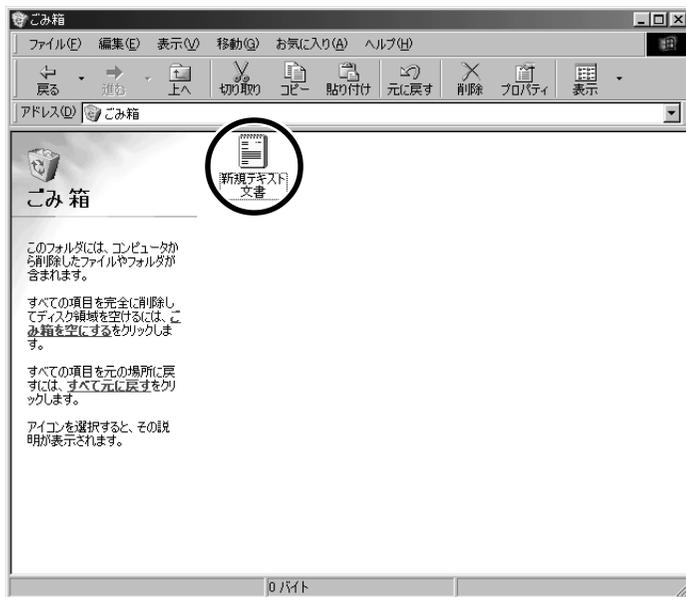
・[新しいフォルダ]画面から[マイドキュメント]画面に移動するには、ツールバーの[上へ]ボタンをクリックします。

2章

パソコンをさわってみよう

4 デスクトップの [ごみ箱] アイコン () をダブルクリックする

[ごみ箱] 画面が開き、削除した [新規テキスト文書] が表示されます。



5 [ごみ箱] 画面で [新規テキスト文書] をクリックする



アイコンが反転表示されます。

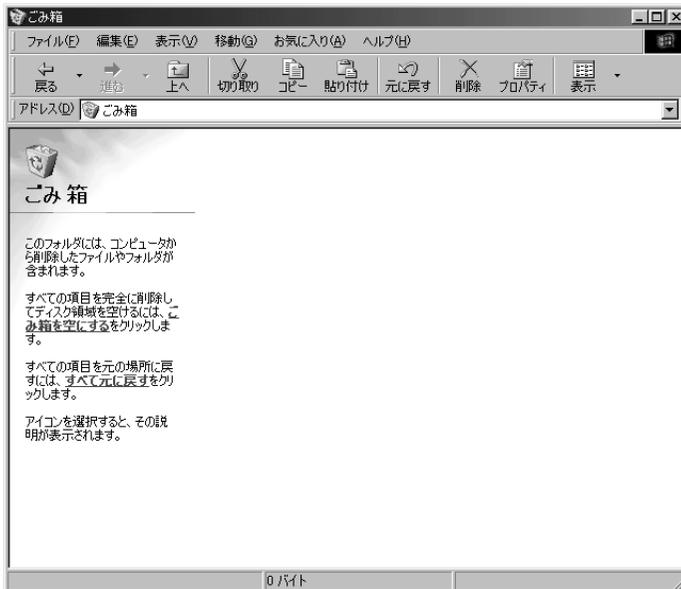
6 ツールバーの [削除] ボタン () をクリックする

[ファイルの削除の確認] 画面が表示されます。



7 [はい] をクリックする

[新規テキスト文書] が完全に削除されます。



・[ごみ箱]から削除したファイルやフォルダは、元に戻すことはできません。よく確かめてから、削除を行ってください。

2章

パソコンをさわってみよう

まとめて削除する方法

[ごみ箱] 画面でファイルやフォルダ名を選択せずに、[ファイル]メニューの[ごみ箱を空にする]をクリックした場合は、[ごみ箱]にあるファイルやフォルダすべてを削除することができます。



・[ごみ箱] から削除したファイルやフォルダは、元に戻すことはできません。よく確かめてから、削除を行ってください。

ごみ箱に入れたファイルを元に戻す

[ごみ箱] にあるファイルやフォルダを元に戻すときは、次の手順で行います。

- 1 デスクトップの[ごみ箱]アイコン()をダブルクリックする

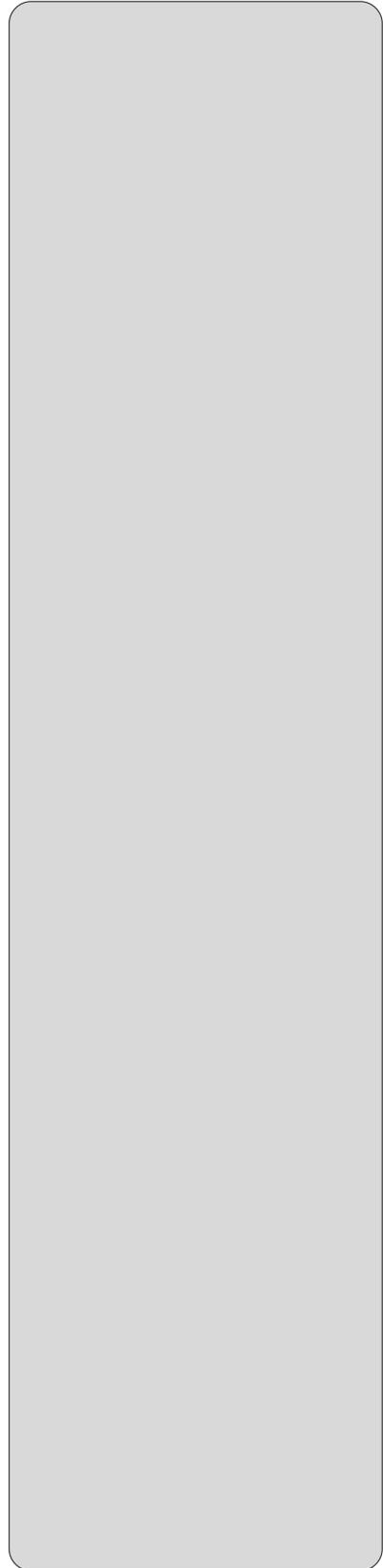
[ごみ箱] 画面が開きます。



- 2** [ごみ箱] 画面で元に戻したい項目をクリックする
選択した項目が反転表示されます。



- 3** ツールバーの [元に戻す] ボタン () をクリックする
選択したファイルやフォルダが、元の場所にに戻ります。



3章

文字を入力してみよう

キーボードで文字を入力し、
文書を作成する方法について説明します。

- 1** メモ帳を開く 64
- 2** キーボードについて 65
- 3** 文字を入力しよう 66
- 4** 文書を保存しよう 76

1

メモ帳を開く

ここでは、文書ファイルにキーボードを使って文字を入力し、文書として保存する方法について説明します。

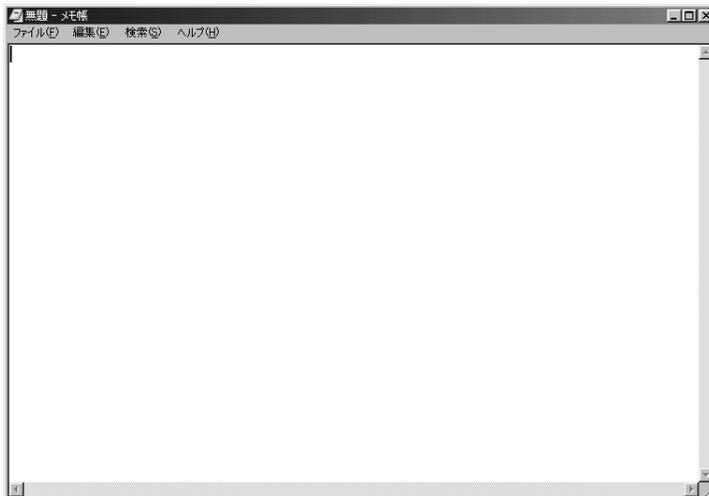
はじめに、文字を入力するファイルを開きましょう。

ここでは、Windows に付属のアプリケーション「メモ帳」を使って[テキスト文書]を作成します。

- 1 [スタート] ボタンをクリックして、[プログラム]-[アクセサリ]-[メモ帳] までたどり、[メモ帳] をクリックする

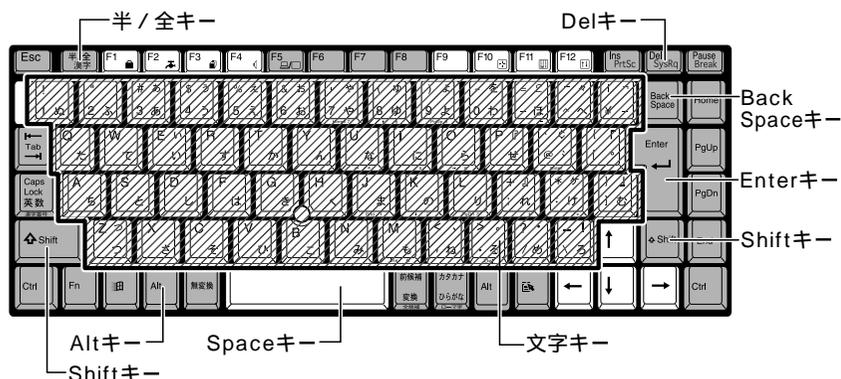


[無題 メモ帳] 画面が開きます。



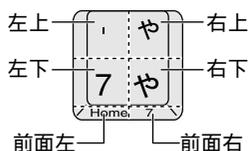
2

キーボードについて



文字キー

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。
文字キーに印刷されている2～6種類の文字や記号は、制御キーで使い分けます。



左上

(Shift) キーを押しながら押すと、記号やアルファベットの大文字が入力できます。

右上

かな入力ができる状態で **(Shift)** キーを押しながら押すと、記号、ひらがなの促音、拗音が入力できます。

左下

他のキーは使わず、そのまま押すと、数字やアルファベットの小文字が入力できます。

右下

かな入力ができる状態で押すと、ひらがなや記号が入力できます。

[参照] かな入力の設定 ▶ 「本章 3-2 入力モードを決める」

前面左

アロー状態のときに押すか、**(Fn)** + **(Shift)** キーを押しながら押すとカーソル制御キーとして使えます。

[参照] アロー状態 ▶ 「5章 2-Arrow Mode LED」

前面右

数字ロック状態のときに押すか、**(Fn)** キーを押しながら押すとテンキーとして使えます。

[参照] 数字ロック状態 ▶ 「5章 2-Numeric Mode LED」

3章

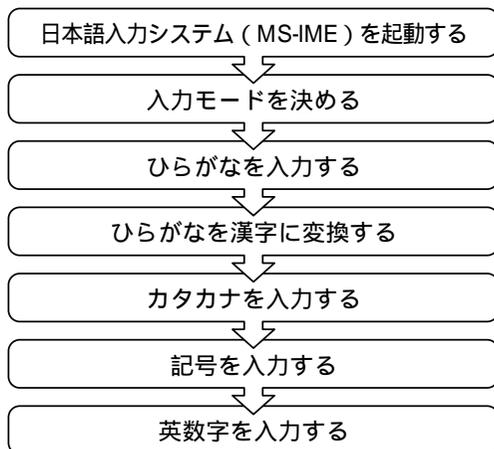
文字を入力してみよう



・「\」(バックスラッシュ)を入力すると、「¥」と表示されます。かな入力状態のときに押すと、カタカナや記号が入力できます。

3 文字を入力しよう

ここでは、簡単な文を入力しながら、パソコンでの文字入力について覚えましょう。次の流れに沿ってすすめていきます。



1. MS-IME とは

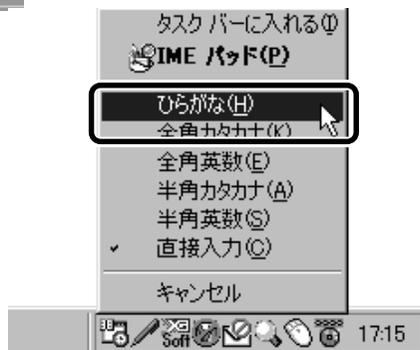
本製品には、Microsoft 社製の日本語入力システム MS-IME が標準で用意されています。起動したときは、英数字入力ができるようになっています。日本語を入力できるようにするには、次の方法があります。

入力モードボタンから選択する



ここをクリックし、メニューの「ひらがな」をクリックする
選択したメニューには、チェックマーク がつきます。

タスクバーの () をクリックし、メニューの「ひらがな」をクリックする



用語

・半角 / 全角

パソコンで入力できる文字には、「半角」「全角」2種類の大きさがある。

「半角」は漢字モードではないときに普通に表示される文字で、少し縦長。(例: A, ア)

「全角」は半角を二つあわせたくらいの大きさ。(例: A, ア)

英数字やカタカナは半角・全角どちらでも入力できるが、ひらがなと漢字は全角でのみ入力できる。

(Alt) + (半/全)キーを押す

日本語入力が行えるようになると、MS-IME ツールバーは次のようになります。



2. 入力モードを決める

入力モードによって、同じキーを押したときでも、表示される文字が異なります。「ローマ字入力」は、キーに印刷されている英数字のとおりローマ字入力して、ひらがなに変換する方法です。

「かな入力」は、キーに印刷されているひらがなのとおりに入力する方法です。MS-IME を起動したときの標準設定は、ローマ字入力になっています。

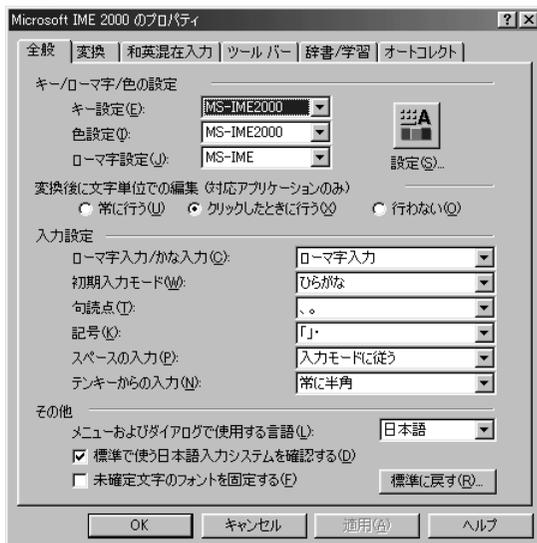
かな入りに設定を変更する場合は、次のように設定してください。

キーボードで設定する

1 **(Ctrl)**キーを押したまま、**(CapsLock英数)**キーを押す

画面上で設定する

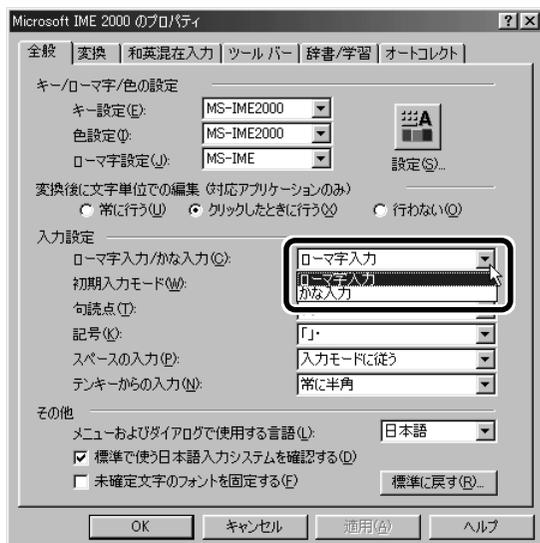
1 MS-IME ツールバーのプロパティアイコン () をクリックする
[Microsoft IME のプロパティ] 画面が表示されます。



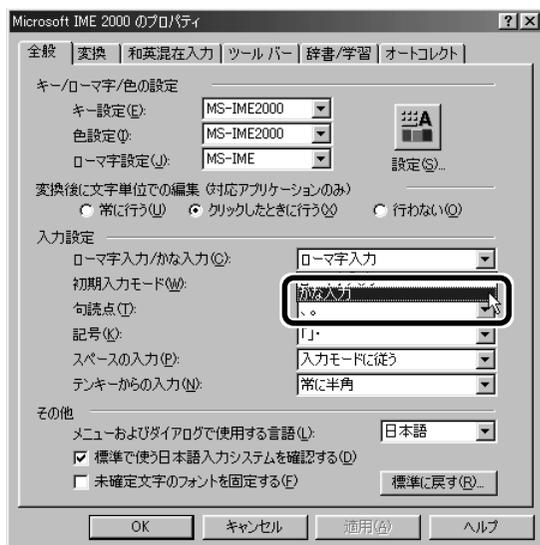
・画面では[全般]タブが一番前に表示されています。表示されているタブが異なる場合は、上部のタブ名をクリックしてください。クリックしたタブが一番前に表示されます。

2 [全般] タブで、[入力設定] の「ローマ字入力/かな入力」ボックスの右にある ▾ ボタンをクリックする

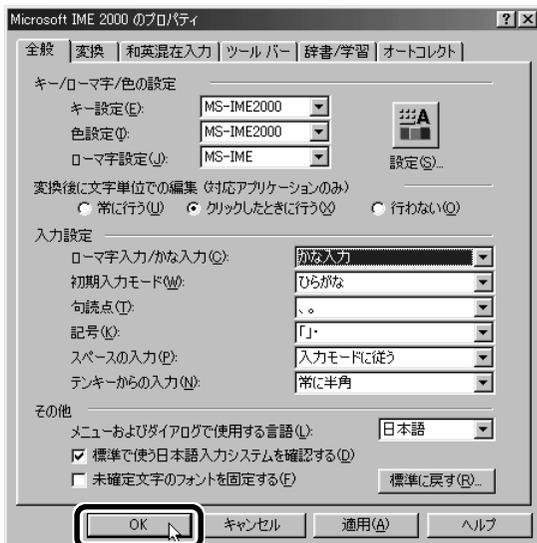
「ローマ字入力」、「かな入力」のメニューが表示されます。



3 「かな入力」をクリックして選択する



4 [Microsoft IME のプロパティ] 画面の一番下にある [OK] ボタンをクリックする



かな入力が行えるようになると、MS-IME ツールバーは次のようになります。



くぼんで表示されます。

続けて、文字を入力する練習をしてみましょう。



・[適用] ボタンをクリックした場合も、続けて[OK] ボタンをクリックしてください。

3章

文字を入力してみよう

3. ひらがなを入力しよう

MS-IME を起動したら、「本章 1 メモ帳を開く」で起動した [無題 メモ帳] 画面に、ひらがなを入力してみましょう。

画面左の一番上の段に、カーソルというたての棒が点滅しています。ここから、文字入力ができます。



それでは、次の文をつくります。

こんばんは
来週パーティーを開きます。
21日、7:00p.m.におこしください。
服部

「こんばんは」は、次のように入力します。

ローマ字入力の場合

(K)(O)(N)(N)(B)(A)(N)(N)(H)(A)と、キーボードのキーを順に押す

かな入力の場合

(こ)(ん)(は)(ん)(は)と、キーボードのキーを順に押す

こんばんは|

間違えたときには

(BackSpace)キーを押すと、右から順に画面上の文字が消えます。

こんばん|

その後、正しい文字を入力し直してください。

日本語を入力すると、文字の下に点線がつきます。これは、この文字が漢字変換できることを表しています。

ここでは、ひらがなで入力したら、(Enter)キーを押して確定してください。文字の下線が消えます。

確定した後、文字を削除するには

○ ○ ○ ○ キーでカーソルを、消したい文字の後ろに移動し、(BackSpace)キーを押します。

また、(Del)キーを押すと、カーソルのひとつ後ろにある文字が消えます。

改行するには

(Enter)キーを押すと、カーソルが一段下の左端に移動します。

こんばんは
|



- ・確定
文字を入力した後、漢字やひらがなに文字を決定して、固定すること。
いったん確定した文字は、他の文字には変わらない。
訂正したい場合は、一度削除して入力し直す。

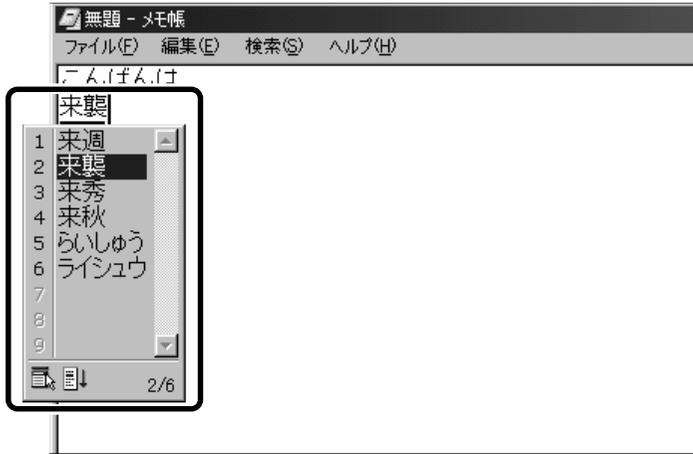
4. ひらがなを漢字に変換しよう

漢字を入力するには、まずひらがなを入力し、漢字に変換します。

「らいしゅう」と入力したら、点線がついた状態で(Space)キーを押します。

こんばんは
来週

目的の漢字ではない場合は、もう一度(Space)キーを押すと、候補の一覧が表示されます。



一覧から キーで選択し、(Enter)キーを押して確定してください。

こんばんは
来週



・「しゅ」と入力する方法

ローマ字入力の場合は、**(S)(Y)(U)**または**(S)(H)(U)**とキーを押します。

かな入力の場合は、**(し)**キーを押した後、**(Shift)**キーを押したまま、**(ゆ)**キーを押します。キートップ右上に印刷された、拗音などの文字を入力する場合は、**(Shift)**キーを押しながら文字キーを押します。

3章

文字を入力してみよう

5. カタカナを入力しよう

カタカナを入力したい場合は、漢字の変換と同様に、ひらがなをカタカナに変換することができます。

ひらがなで「ぱーていー」と入力します。

[Space] キーを押すと、「パーティー」と変換されます。

カタカナのみ入力するときは、MS-IME ツールバーで次のように設定します。



ここをクリックし、メニューから「全角カタカナ」を選択する

MS-IME ツールバーは次のようになります（ローマ字入力の場合）。



続けて「をひらきます」と入力して「を開きます」に変換してみましょう。



・「ー」と入力する方法

ローマ字入力の場合は、

[=] キーを押します。

かな入力の場合は、**[↓]** キーを押します。

・「てい」と入力する方法

ローマ字入力の場合は、

[T][H][I] または

[T][E][X][I] とキーを押します。

かな入力の場合は、**[て]** キーを押した後、**[Shift]** キーを押したまま、**[E]** キーを押します。

6. 記号を入力しよう

よく使う記号の入力方法は次のとおりです。

「、」（読点）

ローマ字入力の場合 .. **[<]** キーを押す

かな入力の場合 **[Shift]** キーを押したまま、**[<]** キーを押す

「。」（句点）

ローマ字入力の場合 .. **[>]** キーを押す

かな入力の場合 **[Shift]** キーを押したまま、**[>]** キーを押す

「？」（疑問符）

ローマ字入力の場合 .. **[Shift]** キーを押したまま、**[?]** キーを押す

「！」（感嘆符）

ローマ字入力の場合 .. **[Shift]** キーを押したまま、**[!]** キーを押す

かな入力の場合、「？」「！」はMS-IME ツールバーを「半角英字」「直接入力」に変更して入力する、またはMS-IME ツールバーから探してください。



・[] (チルダ)を入力する方法

ローマ字入力の場合は、

[Shift] キーを押しながら

[^] キーを押します。

かな入力の場合は、「による」

(**[に]**、**[Shift]** + **[↑]**、**[ろ]**)

と入力した後、**[Space]** キーを押します。

読み方がわからない漢字や記号は、MS-IMEツールバーから探すことができます。

1 MS-IME ツールバーのIMEパッドアイコン () をクリックする

[手書き]画面が表示されます。



2 [手書き] をクリックして 表示されるメニューから、[文字一覧] を選んでクリックする



[文字一覧]画面が表示されます。

3 「半角英字」と表示されているボックスの左にある ボタンをクリックする

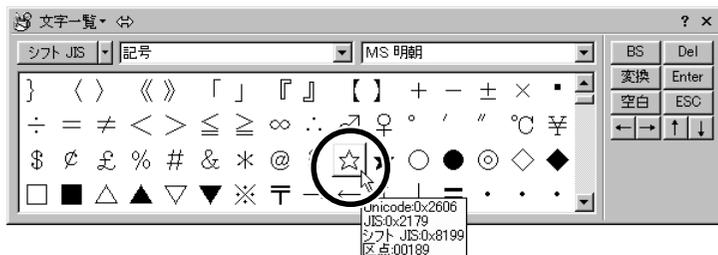


4 表示されるメニューから、[記号] をクリックする

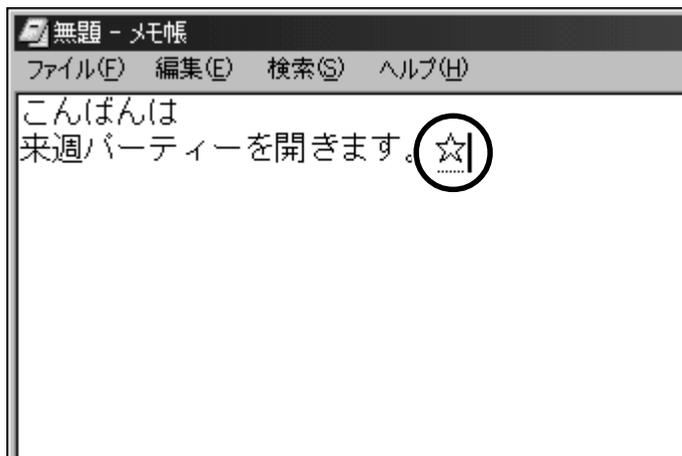


記号の一覧が表示されます。

5 スクロールバーを使って目的の記号を探し、クリックして選択する



「無題 - メモ帳」画面で、記号がカーソルの位置に入力されます。



7. 英数字を入力しよう

英字(アルファベット)や数字を直接入力するとき、MS-IMEツールバーは次のようになります。



「ひらがなまたはカタカナ入力」「直接入力」の切り替えは、(Alt) + (半/全) キーを押すと簡単にできます。

または、MS-IME ツールバーで次のように設定します。



ここをクリックし、メニューから「直接入力」を選択する



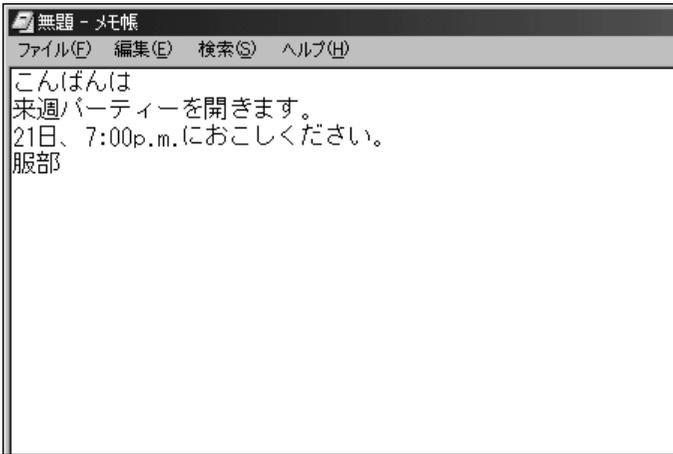
・「全角英数」も選択できますが、英字または数字だけの文章の場合は、一般的に半角で入力します。

「21」と入力してみましょう。

「直接入力」の場合は、文字を入力するだけで、自動的に確定されます。

続けて「日」、「7:00」「p.m.」「に」「おこしてください。」と少しずつ入力してみましょう。

Enterキーを押して、改行してください。「はっとり」と入力して、**Space**キーを押して変換します。



文が完成しました。MS-IMEの詳しい使い方については、『MS-IMEのオンラインヘルプ』をご覧ください。

MS-IMEツールバーのヘルプアイコン()をクリックし、メニューから[目次とキーワード]をクリックするとオンラインヘルプを見ることができます。

「日本語入力システム」によっては、入力方法が多少異なります。MS-IME以外の日本語入力システムをお使いになるときは、ご使用の『日本語入力システムに付属の説明書』をご覧ください。



・小さい「っ」と入力する方法
ローマ字入力の場合は、次の子音を重ねます。「服部」のときは **H A T T O** **R I** となります。
かな入力の場合は、**は**キーを押した後、**Shift**キーを押したまま **ろ** キーを押します。

3章

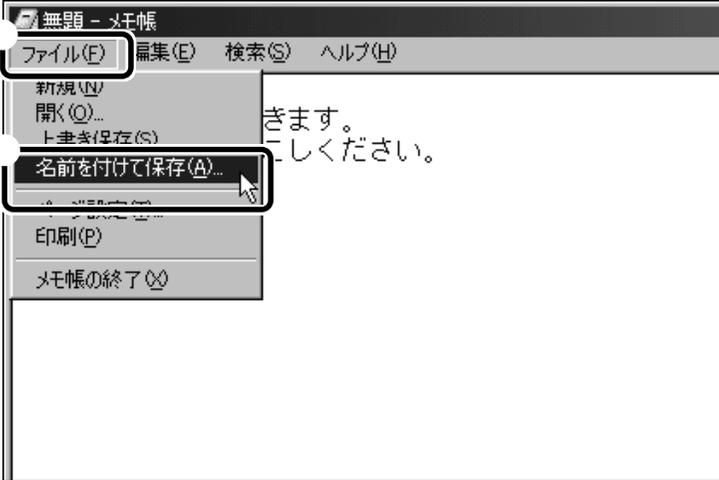
文字を入力してみよう

4

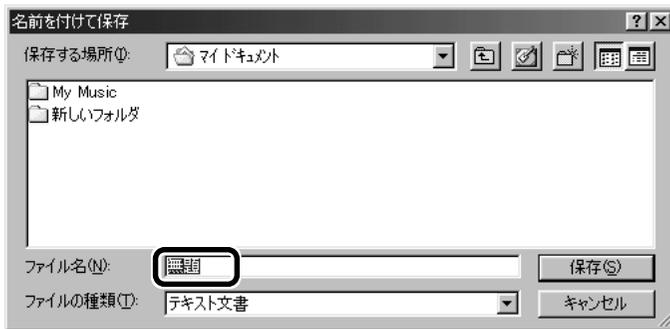
文書を保存しよう

作成した文書を保存して、パソコンの中に保存しておきましょう。

- 1 [無題 メモ帳] 画面で、メニューバーの [ファイル] をクリックして、メニューから [名前を付けて保存] をクリックする

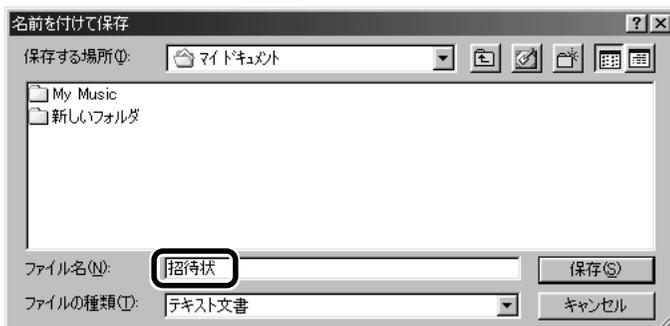


[名前を付けて保存] 画面が開きます。



「ファイル名」に、「無題」の文字が反転表示されています。

- 2 MS-IME ツールバーが、日本語入力になっているか確認する
英数字入力になっている場合は、(Alt)キーを押したまま、(半/全)キーを押して切り替えてください。
- 3 「ファイル名」欄に「招待状」と入力する
「しょうたいじょう」とひらがなで入力してから、(Space)キーを押して漢字に変換します。忘れずに(Enter)キーを押して確定してください。



・「無題」の文字は確定されていないので、何か文字を入力して確定すると、消すことができます。

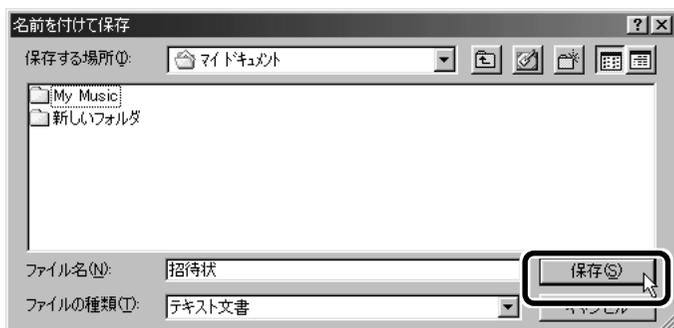
4 「保存する場所」が[マイドキュメント]になっているか確認する

他の場所になっている場合は、ボックス右端の▼ボタンを押して場所のメニューを表示します。



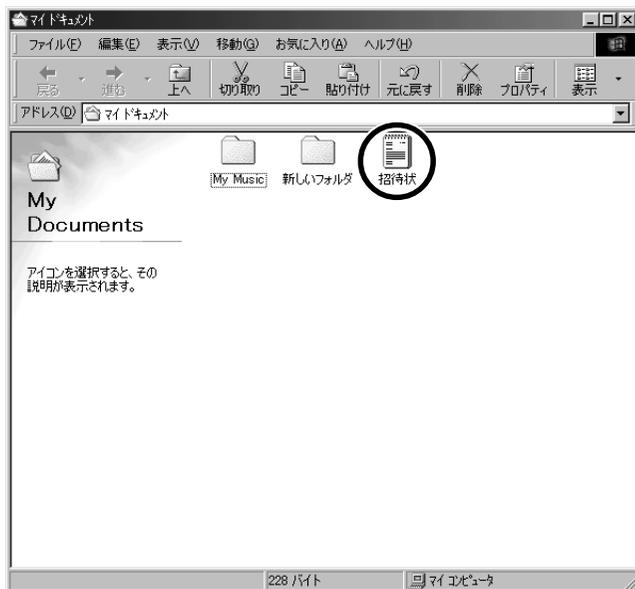
[マイドキュメント]をクリックしてください。

5 [保存]をクリックする



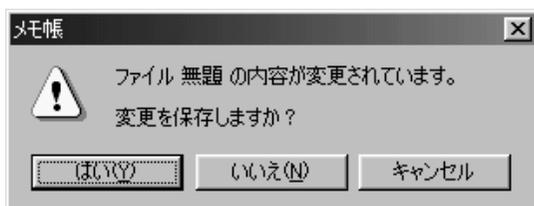
保存したら、開いていた[無題 メモ帳]画面のタイトルが「招待状 - メモ帳」になっているか確認してください。保存したファイルは、画面右上の[閉じる]ボタン(×)で閉じることができます。

「招待状」を閉じたら、[マイドキュメント]を開いて[招待状]のファイルがあるか確認してください。



ファイルを保存せずに閉じた場合

保存されていないファイルの画面を閉じると、「変更を保存しますか？」などのメッセージ画面が表示されます。



- [はい]をクリックすると、変更を保存して画面が閉じます。
- [いいえ]をクリックすると、画面が閉じます。画面を起動したときの状態のまま、入力した文字などは保存されずに消えてしまいます。
- [キャンセル]をクリックすると、元のファイル画面に戻ります。

4章

パソコンのしくみ

ふだん「パソコン」と呼んでいるものは、
いろいろな要素から成り立っています。

- 1** ハードウェアとは 80
- 2** ソフトウェアとは 83

1 ハードウェアとは

コンピュータのしくみについて、「ハードウェア」と「ソフトウェア」、または省略して「ハード」と「ソフト」という言葉がよく使われます。

ハードウェア (Hardware) とは、「固体の、形あるもの」のことです。

パソコンの世界では、ディスプレイやキーボード、マウスなど、実際に目に見えるもの、手に触れられるものを指します。プリンタやデジタルカメラなどの周辺機器もハードウェアです。

しかし、ハードウェアはそれ自体だけでは使えません。そのハードウェアに合ったソフトウェアが必要です。ソフトウェアがあってはじめて、ハードウェアはそれぞれの役割を果たすことができます。

パソコンのハードウェアは、役割によって次のように分類することができます。

1. 記憶装置

パソコンで扱うデータを記憶する装置には、次のようなものがあります。

ハードディスク装置

金属やガラスなどの固い円盤を高速に回転させてデータを記憶する装置です。電源を切っても、データが消えることはありません。大きな容量で、たくさんのデータが記憶できます。

本製品には、ハードディスク装置が内蔵されています。

必要があれば「外付け」のものを追加して記憶容量を増やすこともできます。

フロッピーディスク

3.5インチの薄い円盤にデータを記憶する媒体です。小型で持ち運びができるので、データの受け渡しに便利です。

フロッピーディスクのデータをパソコンに読み込む装置を「フロッピーディスク装置」または「フロッピーディスクドライブ」といいます。本製品には、フロッピーディスク装置が内蔵されています。

 フロッピーディスクの使い方 ▶ 「5章 6 フロッピーディスク」

CD

直径12cmの円盤にデータを記憶する媒体です。

パソコンのデータを記録するCDには、次の種類があります。

CD-ROM 読み出し専用

CD-R 書き込みができる。一度書き込まれたデータの削除・変更はできない

CD-RW 1000回程度、データの書き換えや削除が行える

CDエクストラ 記録領域を音楽データ用とパソコンのデータ用に分け、両方の再生装置でそれぞれ再生する

フォトCD 普通のカメラで撮影した写真の画像をデジタル化して記録する
音楽CD



・内蔵
パソコン本体にあらかじめ組み込まれていること。

DVD

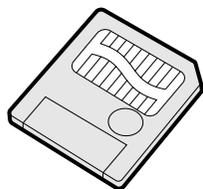
CDと同じ直径12cmの円盤に、CDの6～8倍のデータを記憶できます。

DVD-ROM 読み出し専用

DVD-Video 映像の再生ができる

スマートメディア

小さなカードにデータを記憶する媒体です。



大きなデータが保存できるので、デジタルカメラ、電子楽器、音声・音楽用機器、ファックス、プリンタ、スキャナなどの機器とのデータの移動に便利です。決められた位置に専用のシールを貼ると、データを消去しないよう保護することができます。

2. 表示装置

表示装置は、パソコンの内部で行う作業を、目に見えるように表示する装置です。一般的にディスプレイが使われます。ディスプレイを見ながらパソコンに指示を出すことができます。

液晶ディスプレイ

画面をごく小さな点に分けて、点ごとに電圧を変化させて画像を表示します。本製品には、液晶ディスプレイが内蔵されています。

CRTディスプレイ

テレビと同様に、ブラウン管を発光させて表示します。

3. 入力装置

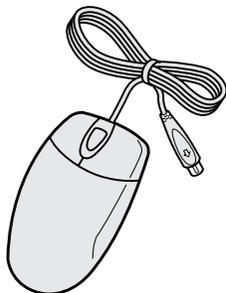
キーボード

文字や数字など、記号を入力してパソコンに指示を与える装置です。



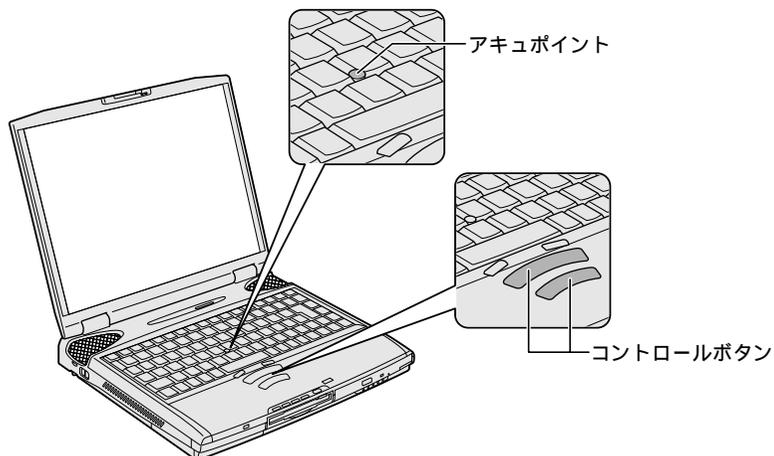
マウス

画面上のマウスポインタ()を動かして、パソコンに指示を与える装置です。本製品に同梱されています。



アキュポイント とコントロールボタン

マウスと同じ役割を持つ入力装置です。本製品に用意されています。



2 ソフトウェアとは

ソフトウェア (Software) とは、パソコンに実際の命令を出す道具です。ソフトウェアは目に見えませんが、ハードウェアであるパソコンに組み込んで (インストールして) 初めて使えます。ソフトウェアがないと、ハードウェアは存在しているだけで、その価値を發揮できません。

パソコンで使用するソフトウェアは、大きく分けて次のように呼ばれます。

1. OS (オペレーティングシステム)

基本システムともいいます。パソコンでデータを扱うための、土台となるソフトウェアです。

本製品では、OSに「Windows 98」を使います。パソコンを購入して最初にWindowsのセットアップを行うのは、パソコンを動かす土台を敷くためです。セットアップ済みのパソコンでは、毎回電源を入れるたびに、Windowsが起動して、その上でデータを扱えるようになります。

OSによって、画面の表示形式と、機器を操作する環境が異なります。Windowsでは、パソコン内部での作業をイメージしやすいように、画面上にマウスポインタやアイコンが表示されます。

2. アプリケーション

アプリケーション・ソフトウェアの略で、特定の用途のために利用するソフトウェアのことです。ワープロや計算など、目的によって使い分けます。

アプリケーションはOSによって仕様が異なるので、WindowsにはWindows用のアプリケーションを使用します。セットアップ済みのパソコンにインストールした後、OSの上で起動して使います。本製品には、いろいろなアプリケーションがすでにインストールされていますので、目的に応じて使ってみてください。

 本製品にインストールされているアプリケーションについて

▶ 『活用編 1章 アプリケーションについて』

アプリケーションを使って作ったデータは、ファイルの形でひとまとまりに保存します。

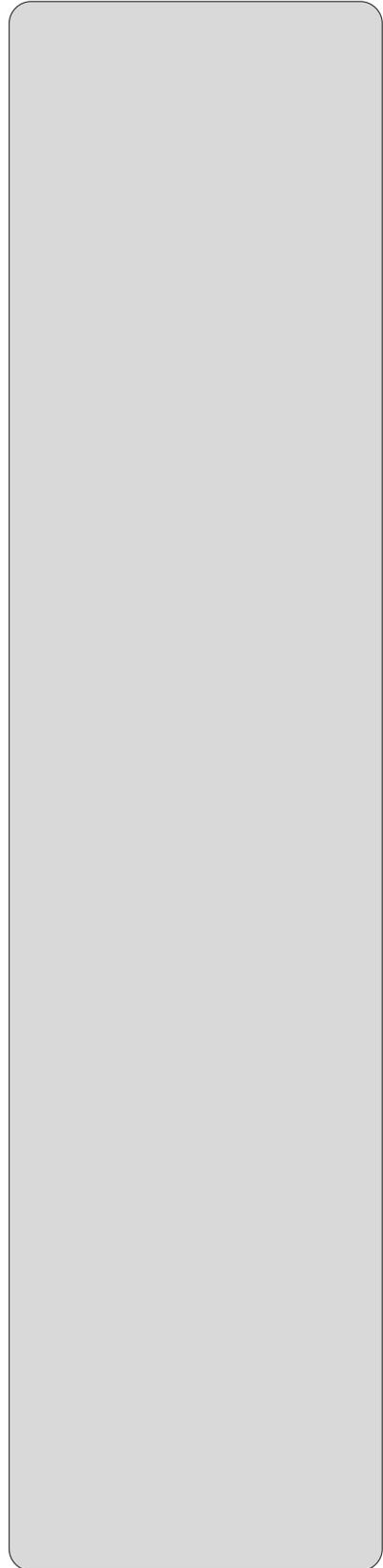
Windowsでは、ファイルがどのアプリケーションで作られたものかわかるように、アプリケーションごとに異なるアイコンでファイルを表示します。

 ファイルについて ▶ 「2章 4 ファイルやフォルダを作ってみよう」

そのほかにも、OS上でハードウェアを動かすためのソフトウェア (ドライバ) や、アプリケーションを補佐する働きをもつソフトウェア (ユーティリティ) など、様々な種類のソフトウェアがあります。



- ・インストール
ソフトウェアをパソコンに組み込み、使える状態に設定すること。



5章

本体の機能を知ろう

本製品に用意されている機能について説明しています。

1	各部の名前	86
2	インジケータ	94
3	バッテリー	96
4	キーボード	104
5	マウス	111
6	フロッピーディスク	113
7	CD / DVD	117
8	サウンド	125
9	内蔵モデム	127
10	日常の取り扱いとお手入れ	129

1

各部の名前

ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。

それぞれについての詳しい説明は、それぞれに関連する節で行います。

周辺機器を取り付ける場所については、『活用編 3章 周辺機器を使おう』をご覧ください。

前面図

ディスプレイ
表示装置です。

DVDまたは
CD-RWモデル : TFT方式カラー液晶
ディスプレイ
(1024×768ドット)
CD-ROMモデル : DSTN方式カラー液晶
ディスプレイ
(800×600ドット)

ディスプレイ開閉ラッチ

 電源スイッチ

 リセットスイッチ
電源を入れた直後の初期
状態にするスイッチです。
先の細いもので押し
てください。

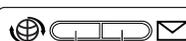
電源スイッチロック
電源スイッチをロックします。

キーシフトインジケータ

メール着信ランプ
新着メールがある場合に点灯します。

フロッピーディスク装置
3.5型の2HD、2DD形式のフロッピー
ディスクが使用できます。

システムインジケータ



メールボタン
ボタンを押すと、メール
ソフトが起動します。
▶「本節 2-メールボタンと
メール着信ランプ」

インターネットボタン
ボタンを押すと、インターネット
ブラウザが起動します。
▶「本節 2-インターネットボタン」

スピーカ

アキュポイント
マウスと同等の動作をします。

キーボード

CD操作ボタン
パソコンの電源を入れていない
状態でCDを操作して音楽を
聴くことができます。
また、DVD-Videoの操作も行えます。
▶「本章 7-4 CD操作ボタンを使う」

CD-ROM装置、CD-RW装置または
DVD-ROM装置
(ご購入のモデルによって異なります)
使用できるCD / DVDについて
▶「本章 7 CD / DVD」

背面図

スクロールボタン
画面のスクロールなどができます。

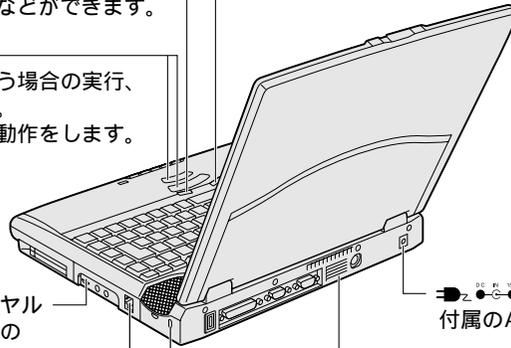
コントロールボタン
アキュポイント を使う場合の実行、
キャンセルボタンです。
マウスボタンと同等の動作をします。

▶ ボリュームダイヤル
ヘッドホンやスピーカの
音量を調節します。
音量を大きくしたいときは
奥に、小さくしたいときは
手前に回します。

モジュージャック
モジュラーケーブルで
本体を電話回線に接続し、
モデム機能を使用します。
☞「4章 7 モデムへの接続」

■ ESE セキュリティロック・スロット
盗難防止用にチェーンなどを接続します。

📌 お願い・セキュリティロック用の機器については、
本パソコンに対応のものかどうかを
販売店にご確認ください。



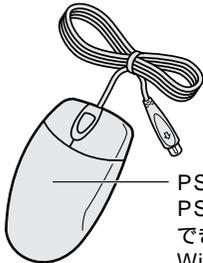
電源コネクタ
付属のACアダプタを接続します。

通風口
パソコン本体内部の熱を外部に
逃がすための吹き出し口です。

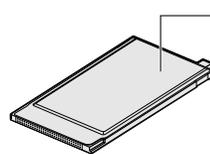
付属品

電源コード
電源コンセントから
ACアダプタに電源を
供給するケーブルです。

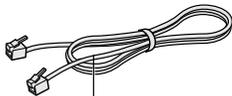
ACアダプタ
電源コネクタに接続し、
パソコン本体に電源を
供給します。



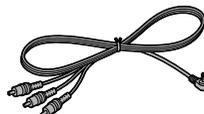
PS/2マウス
PS/2コネクタに接続して使用
できます。
Windowsのセットアップが
終了した後に接続してください。
☞「4章 2 マウスの接続」



スマートメディアアダプタ
(DVDまたはCD-RWモデルのみ)
スマートメディアを挿入し、PCカード
スロットに取り付けて使用します。
スマートメディアを使用して、データ
を保存したり、ほかのパソコンとデータ
をやり取りすることができます。



モジュラーケーブル
電話回線と内蔵モデムを接続
するケーブルです。

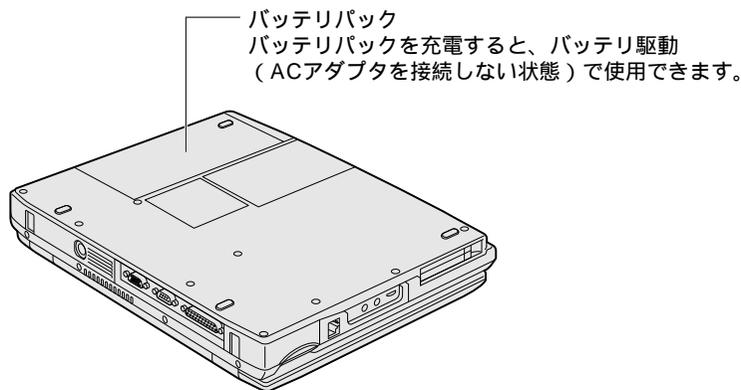


ビデオ出力ケーブル
(DVDまたはCD-RWモデルのみ)
ビデオ出力端子とNTSC/PAL規格対応
のテレビなどを接続するケーブルです。
☞「4章 9 テレビへの接続」

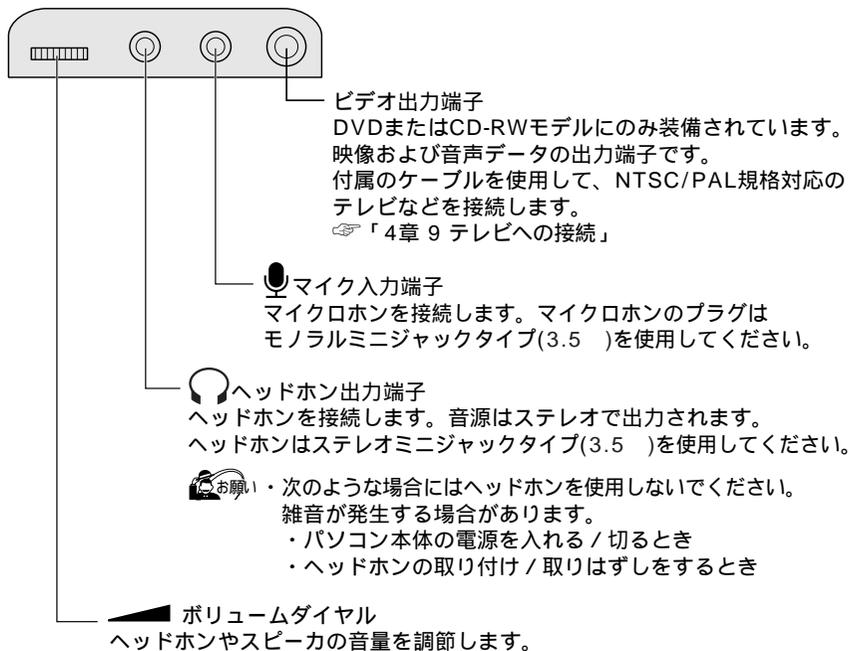
5章

本体の機能を知ろう

裏面図



端子拡大図



1. 内蔵装置

ディスプレイ

 ディスプレイとは ▶ 「4章 1-2 表示装置」

本製品ではカラー液晶ディスプレイを採用しています。

DVDまたはCD-RWモデル	TFT方式カラー液晶ディスプレイ	1024×768ドット
CD-ROMモデル	DSTN方式カラー液晶ディスプレイ	800×600ドット

カラー液晶ディスプレイの機能について説明します。

表示について

本製品では、カラー対応のアプリケーションをご使用の場合にカラー表示されます。それ以外のものは、モノクロ表示になります。

TFT方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られています。一部に表示不良画素（欠け・常時点灯など）が存在することがあります。これらの表示不良画素は、少量に抑えるように管理していますが、現在の最先端の技術でも表示不良画素をなくすことは困難ですので、ご了承ください。

DSTN方式のカラー液晶ディスプレイは性能上、多少の表示ムラが見えることがあります。また、非常に高精度な技術を駆使して作られています。構造上、まれに画面中央の水平方向に細かいすじが見えることがあります。現在の最先端の技術でも、これらのすじをなくすことは困難ですので、ご了承ください。

表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

	DVDまたはCD-RWモデル	CD-ROMモデル
1280×1024ドット	1,677万色	256色
1024×768ドット	1,677万色	65,536色
800×600ドット	1,677万色	1,677万色
640×480ドット	1,677万色	1,677万色

DVDまたはCD-RWモデルでは、1600×1200ドットまで仮想スクリーン表示できます。

色数は65,536色です。



- ・1,677万色はディザリング表示です。



- ・ディザリング
1ピクセル（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数ピクセルの組み合わせによって表現する方法。

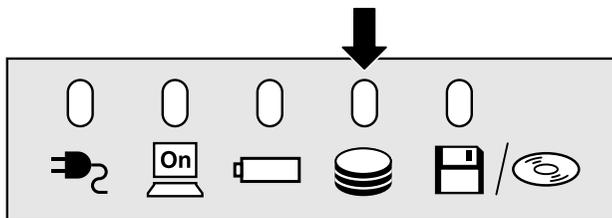
ハードディスク装置

 ハードディスク装置とは ▶ 「4章 1-1 記憶装置」

ハードディスク装置は、本体に内蔵されています。取りはずしはできませんので、分解しないでください。

ハードディスク装置に関する表示

ハードディスクとデータをやり取りしているときは、Disk  LEDが点灯します。



ハードディスクに記録された内容は故障や損害の原因にかかわらず保証いたしかねますので、ご了承ください。

万一故障した場合に備え、バックアップを取ることをおすすめします。バックアップの方法は、『Windows のヘルプ』をご覧ください。

ハードディスクを使用するときのお願い

ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起きたり、変化/消失した場合に備えて、定期的にフロッピーディスクに保存しておいてください。記憶内容の変化/消失など、ハードディスクやフロッピーディスクに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。

磁石、スピーカなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化/消失するおそれがあります。落とす、ぶつけるなど強いショックを与えないでください。

ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。



- ・ Disk  LED が点灯中は、電源を切ったり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データが消失するおそれがあります。

2. インターネットボタンとメールボタン

インターネットボタン

インターネットボタンを使うと、ワンタッチでインターネットブラウザを起動できます。

あらかじめ、内蔵モデムをモジュラーケーブルで電話回線に接続してください。

 内蔵モデムについて ▶ 「本章 9 内蔵モデム」

初めてインターネットボタンを使用するときは、インターネットに接続するための設定や契約が必要です。

 詳細について ▶ 『インターネットをはじめよう!』

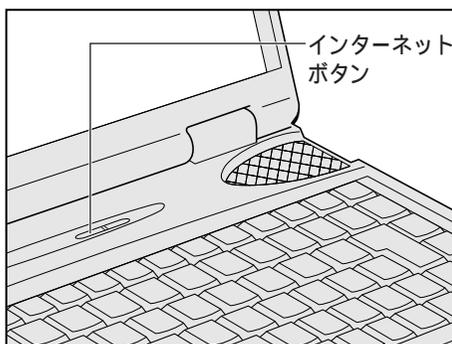
操作方法

1 インターネットボタン () を押す

パソコン本体の電源が OFF のときは電源が ON になります。スタンバイまたはハイバネーション機能を実行中にインターネットボタンを押すと、電源を切る前の状態が再現された後、インターネットブラウザが起動します。

ブラウザはご購入時には「Internet Explorer」に設定されています。

 Internet Explorer について ▶ 『活用編 1 章 3-Internet Explorer』



・インターネットボタン、メールボタンを使用するにはあらかじめインターネットプロバイダとの契約が必要です。本製品にはプロバイダにインターネット経由で接続し、オンラインサインアップを行うことのできる「簡単インターネット」が用意されています。

 詳細について

▶ 『活用編 1 章 3-簡単インターネット』

メールボタンとメール着信ランプ

メールソフトをワンタッチで起動したり、メールソフトを起動していないときでも新着メールがあるか確認できます。

内蔵モデムをモジュラーケーブルで電話回線に接続しておいてください。

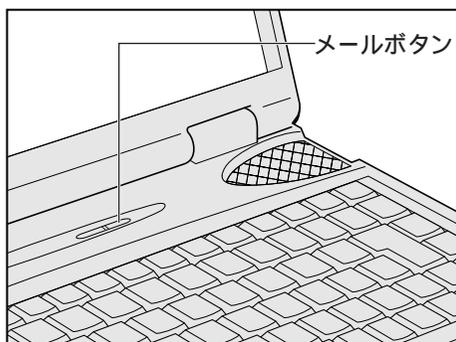
 内蔵モデムについて ▶ 「本章 9 内蔵モデム」

メールボタンの操作方法

ワンタッチでメールソフトを起動します。

1 メールボタン (✉) を押す

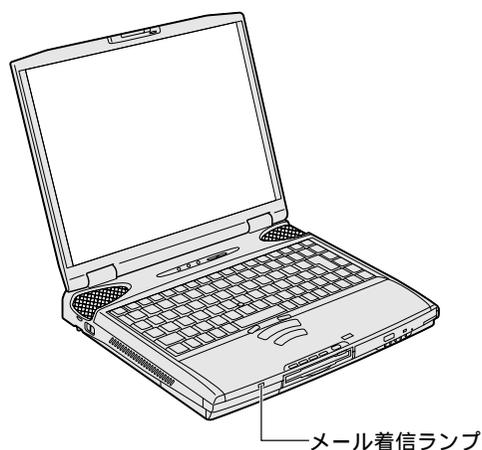
システムで設定されているメールソフトが起動します。ご購入時には、「Microsoft Outlook Express」に設定されています。



 参照 Microsoft Outlook Express について

▶ 『活用編 1章 3-Microsoft Outlook Express』

メール着信ランプ



新着メールがある場合に点灯します。

新着メールチェック機能を使うと、設定した時間にパソコンが自動的に起動して、新着メールがあるかチェックできます。新着メールがあると、メール着信ランプが点灯します。

新着メールチェック機能

設定したスケジュールにしたがって新着メールのチェックを行います。
新着メールを確認すると、メール着信ランプが点灯します。
「新着メールチェック機能」を使う場合は、ACアダプタを接続してお使いください。

メール接続環境の設定

「新着メールチェック機能」を使用する前に、メールソフトの接続環境を設定します。

- 1 タスクバーのメールアイコン () を右クリックする
- 2 [メール接続環境の設定] をクリックする
詳しくは「メール着信ユーティリティ」のヘルプをご覧ください。

スケジュールの設定

新着メールをチェックするスケジュールを設定します。

- 1 タスクバーのメールアイコン () を右クリックする
- 2 [新着メールチェックのスケジュール設定] をクリックする
設定画面が表示されます。
- 3 必要事項を設定し、[OK] ボタンをクリックする

新着メールチェック機能を開始する

- 1 タスクバーのメールアイコン () をダブルクリックする
アイコンが  に変わります。

新着メールチェック機能を終了する

新着メールチェック機能を終了する

- 1 タスクバーのメールアイコン () をダブルクリックする
アイコンが  に変わります。

ボタンの機能を変更する

「Toshiba Button Manager」で設定すると、インターネットボタンとメールボタンから起動するアプリケーションを変更できます。

 詳細について

- 『活用編 1章 2-Toshiba Button Manager』、《オンラインマニュアル》



・新着メールチェック機能には、そのアクセスに応じた電話料金、およびプロバイダへのアクセス料金がかかります。



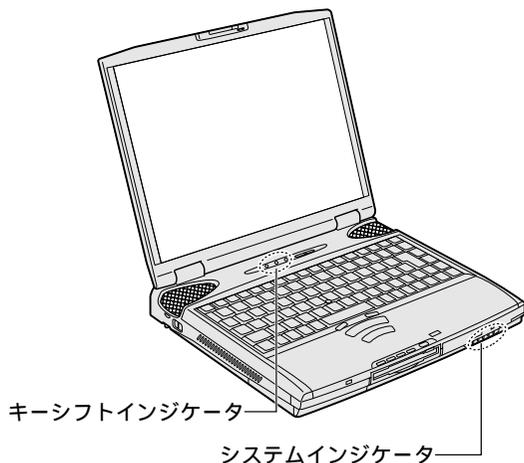
・「メール着信ユーティリティ」のヘルプの起動方法
タスクバーのメールアイコン () を右クリックして [ヘルプ] を選択します。

5章

本体の機能を知ろう

2 インジケータ

インジケータの点灯状況によって、パソコン本体がどのような動作をしているか知ることができます。



システムインジケータ

システムインジケータは、パソコン本体の動作状態を示します。

	DC IN LED	電源コードの接続 ▶「1章 1- 電源に関する表示」
	Power LED	電源の状態 ▶「1章 1- 電源に関する表示」
	Battery LED	バッテリーの状態 ▶「本章 3 バッテリー」
	Disk LED	ハードディスク装置にアクセスしている ▶「本章 1- ハードディスク装置」
	FDD/CD-ROM LED	フロッピーディスク装置、またはCD-ROM / CD-RW / DVD-ROM装置にアクセスしている ▶「本章 6 フロッピーディスク」 ▶「本章 7 CD / DVD」

キーシフトインジケータ

キーボードのキーは、状態によって入力できる文字が異なります。

キーシフトインジケータは、入力状態を示します。

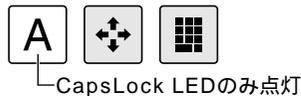
	Caps Lock LED	文字入力の「大文字ロック状態」
	Arrow Mode LED	文字入力の「アロー状態」
	Numeric Mode LED	文字入力の「数字ロック状態」

CapsLock LED

文字キーを押すと、英字の大文字が入力できる「大文字ロック状態」を示します。
 (Shift) + (CapsLock 英数) キーを押すと、Caps Lock  LED が点灯し、大文字ロック状態になります。

すべてのキーを大文字ロック状態で使用する場合、3つのLEDの状態を次のようにしてください。

大文字ロックは数字ロックやかな入力よりも優先度が低いため、LEDの状態が異なると、一部のキーが数字やキー制御のキーとなり、英字が入力できません。
 大文字ロック状態の場合、3つのLEDの状態は次のようになります。



MS-IMEツールバーを表示している場合は、[CAPS]の文字がくぼんで表示されます。



大文字ロック状態を解除するには、もう一度 (Shift) + (CapsLock 英数) キーを押します。解除されると、CapsLock LEDは消灯します。

Arrow Mode LED

オーバーレイキーを押すと、カーソル制御キーとして使用できる「アロー状態」を示します。

(Fn) + (F10) キーを押すと、Arrow Mode  LED が点灯し、「アロー状態」になります。アロー状態でオーバーレイキーを押すと、カーソル制御キーとして使えます。

アロー状態を解除するときは、もう一度 (Fn) + (F10) キーを押します。解除されると Arrow Mode LED は消灯します。

大文字ロック状態の場合、3つのLEDの状態は次のようになります。



 オーバレイキーについて ▶ 「本章 4 キーボード」

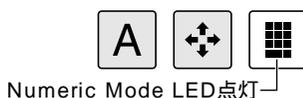
Numeric Mode LED

オーバーレイキーを押すと、数字が入力できる「数字ロック状態」を示します。

(Fn) + (F11) キーを押すと、Numeric Mode  LED が点灯し、数字ロック状態になります。

数字ロック状態でオーバーレイキーを押すと、キーの前面右側に印刷された数字などの文字が入力できます。

数字ロック状態の場合、3つのLEDの状態は次のようになります。



3

バッテリー

危険

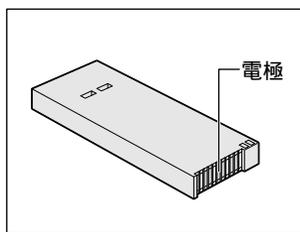
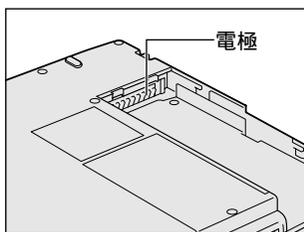
- ・バッテリーパックを火の中へ投げ入れたり、加熱したりしないでください。破裂、発火させる原因となります。
- ・バッテリーパックを分解・改造しないでください。破裂、発火させる原因となります。
- ・バッテリーパックの電極の(+)と(-)を針金などの金属で接続しないこと。また、金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり、保管しないでください。電極がショートすると、発熱、破裂、発火させる原因となります。バッテリーパックを持ち運ぶときや保管するときは、電極が金属に触れないように、ビニールなどで包んでください。
- ・バッテリーパックにくぎを刺したり、カナヅチでたたいたり、踏みつけたりしないでください。電極がショートすると、発熱、破裂、発火させる原因となります。

警告

- ・バッテリーパックの使用、充電中、保管時に異臭・発熱・変色・変形など異常が発生した場合は、すぐにパソコン本体から取りはずしてください。
- ・バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、指定の製品をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なることがあるため発煙、火災のおそれがあります。使用済みのバッテリーパックの処理は、地方自治体の条例または規則に従ってください。

⚠ 注意

- ・バッテリーパックの充電温度範囲内（10～30℃）で充電してください。
充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- ・バッテリーパックを水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
発熱したり、サビなどのおそれがあります。
- ・バッテリーパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常と思われるときは使用しないでください。
お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- ・バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。
バッテリー（バッテリーパック、時計用バッテリー）を使いきってしまうと、スタンバイ機能が効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、一度全バッテリーを充電するために、ACアダプタを接続して充電してください。
- ・バッテリーパックの取り付け/取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。スタンバイ機能を実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。
- ・バッテリーパックを保管する場合は、ショート防止のために電極に絶縁テープをはるなどの対策をこうじてください。そのままの状態では保管すると、破裂や火災のおそれがあります。
- ・バッテリーパックはしっかりと取り付けられているかどうか、必ず確認してください。正しく取り付けられていないと、持ち運びのときにバッテリーパックがはずれ落ちて、思わぬケガのおそれがあります。
- ・充電機能が著しく低下した場合や、バッテリーのなくなったことによる警告メッセージが表示された場合は使い続けしないでください。
そのまま使い続けると、本体内の記憶内容がこわされるおそれがあります。手順に従いバッテリーの交換をしてください。
- ・バッテリーパックを捨てるときは、ショート防止のために、電極に絶縁（ぜつえん）テープをはり、地方自治体の条例や規則に従ってください。
そのままの状態では捨てると、破裂、発火のおそれがあります。
- ・本体側の電極に手を触れないでください。故障の原因になります。



パソコン本体には、バッテリーパックが内蔵されています。

バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリー駆動で使う場合は、ACアダプタを接続してバッテリーの充電を完了（フル充電）させます。または、フル充電したバッテリーパックを取り付けます。バッテリーをフル充電しなくても使えますが、使用できる時間は短くなります。

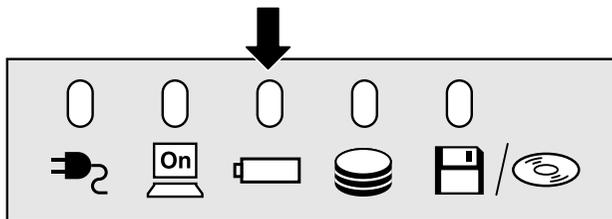
ご購入時は、バッテリーはフル充電されていませんので、本製品を初めてお使いになるときは、バッテリーを充電してからお使いください。

1. バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って途中で作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。バッテリー充電量を確認するには、次の方法があります。

Battery LED で確認する

ACアダプタを接続している場合、Battery LED が緑色に点灯すれば充電完了です。



バッテリー駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリーの充電が必要です。Battery LED は次の状態を示しています。

緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点灯	充電が必要
消灯	<ul style="list-style-type: none"> ・バッテリーが接続されていない ・ACアダプタが接続されていない ・バッテリー異常

アイコンで確認する

タスクバーの省電力アイコン () の上にマウスポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

ACアダプタを接続している場合



ACアダプタを接続していない場合



(表示例)

このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリー駆動で使用している場合には、バッテリー動作予想時間も表示されます。



- ・タスクバーに表示される省電力アイコンの絵は現在使用されている省電力モードにより変わります。
- ・省電力ユーティリティ ([コントロールパネル]-[省電力]) の [電源設定] タブの設定内容によっては、タスクバーに省電力アイコンが表示されません。表示させたいときは、[電源設定] タブで [タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックしてください。

バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

Battery  LEDがオレンジ色に点滅する(バッテリーの減少を示しています)
警告音(ピープ音)が鳴る

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの対処を実行してください。

パソコン本体に AC アダプタを接続する

電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

対処しないと、ハイバネーション機能が有効に設定されている場合、パソコン本体は自動的にハイバネーション機能を実行し、電源を切ります。

ハイバネーション機能が無効の場合、パソコン本体は何もしないで電源が切れますので、ハイバネーション機能を有効にしておくことをおすすめします。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックのほかに、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、AC アダプタを接続しているときに行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識して行う必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。充電完了までの時間は次のとおりですが、実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

状態	時計用バッテリー
電源ON (Power  LEDが点灯)	10時間以上
電源OFF (Power  LEDが消灯)	充電しない



- ・長時間使用しないで自然に放電しってしまったときは、警告音でもBattery  LEDでも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。



- ・時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながすWarning (警告)メッセージが出ます。

2. バッテリを充電する

ここでは、充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

充電方法

1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

DC IN  LED が緑色に点灯して Battery  LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

パソコン本体に AC アダプタを接続すると、電源の ON/OFF にかかわらず常時充電されます。

2 Battery LED が緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery  LED がオレンジ色に点灯します。DC IN  LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

充電時間

充電時間の目安は次のとおりです。

状態	充電時間
電源ON	約4～10時間
電源OFF	約2～3時間

(注) 周囲の温度が低いとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くかかることがあります。

使用できる時間

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。次の時間は目安にしてください。

充電完了の状態で使用した場合

省電力モード	動作時間
ハイパワー	約2.6時間 (DVDまたはCD-RWモデルの場合)
	約3時間 (CD-ROMモデルの場合)

(注) 当社オリジナルプログラムで計測

使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。この場合も放置環境などに左右されますので、保持時間は、目安にしてください。

フル充電した状態で電源を切った場合

パソコン本体の状態	保持時間
電源切断 またはハイバネーション	約2週間



- ・バッテリーパックが極端に熱いか冷えていると、正常に充電されないことがあります。バッテリーを充電するには、10～30の室温で充電してください。



- ・使用しないときはバッテリーパックをパソコンから取りはずしておく、バッテリー駆動で使用できる時間は長くなります。
- ・スタンバイ機能を実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリー駆動時はハイバネーション機能を使用することをおすすめします。

バッテリーを節約する

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

バッテリーの充電を完了（フル充電）する

バッテリー駆動で使用した後は、バッテリーを充電しておく

ハイバネーション機能を活用し、こまめに電源を切る

 ハイバネーション機能 ▶ 「1章 3 作業を中断する」

パネルスイッチ機能を活用し、入力しないときは、ディスプレイを閉じておく

 パネルスイッチ機能 ▶ 「1章 4 簡単に終了する / 作業を中断するとき」

省電力モードを設定する

 省電力モードの設定 ▶ 『活用編 1章 2-省電力ユーティリティ』

3. バッテリーパックを交換する

取りはずし / 取り付け

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

スタンバイ機能を実行すると、バッテリーパックをはずしたときにデータが消失するので使用できません。

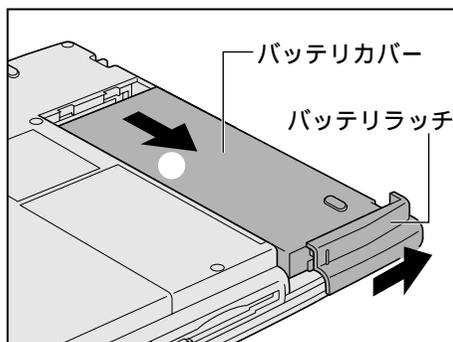
ハイバネーション機能を使用する場合は、[電源の管理]プロパティの[休止状態]タブで、[休止状態をサポートする]をチェックしてください（ハイバネーション機能を使用することにより、再起動にかかる時間が短くてすみます）。

 ハイバネーション機能について ▶ 「1章 3 作業を中断する」

2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

3 ディ스플레이を閉じてパソコン本体を裏返す

4 バッテリラッチを横に押し、バッテリーカバーをスライドさせる



・バッテリーパックの取り付け / 取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。

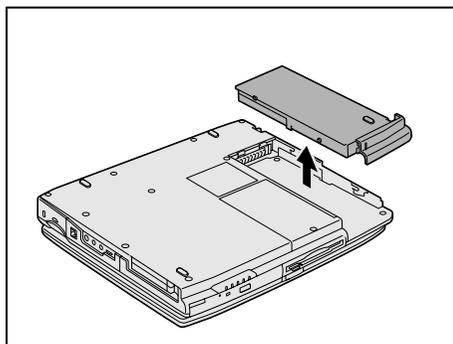


・[電源の管理]プロパティは、[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックして、[電源の管理]をダブルクリックして起動します。

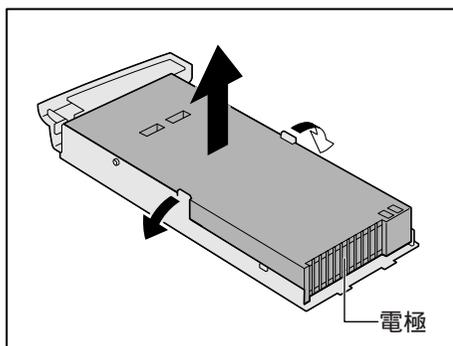
5章

本体の機能を知ろう

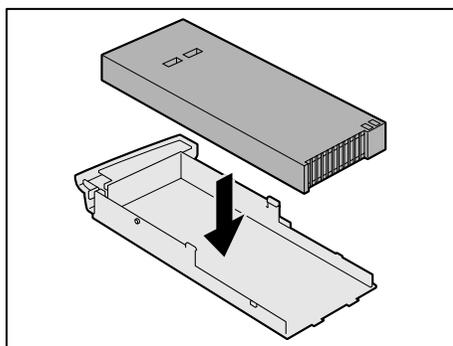
- 5** バッテリパックごと、バッテリーカバーを取り出す



- 6** バッテリカバーからバッテリーパックを取り出す
バッテリーカバーのツメを左右に広げ、バッテリーパックを取りはずします。

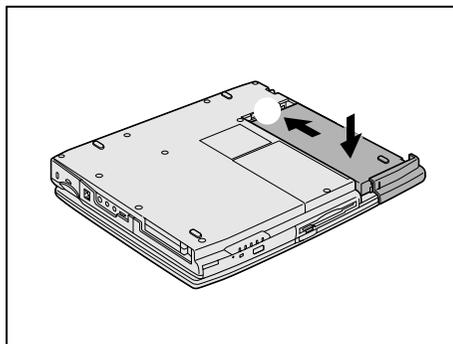


- 7** 交換するバッテリーパックをバッテリーカバーに取り付ける

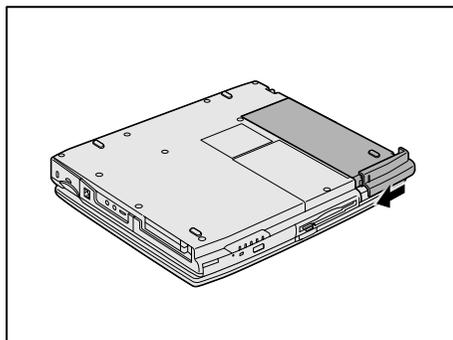


- 8** バッテリラッチが右側にあることを確認し、バッテリーパックをコネクタの位置に合わせ、静かに差し込む

新しい、あるいは充電したバッテリーパックを注意して差し込んでください。



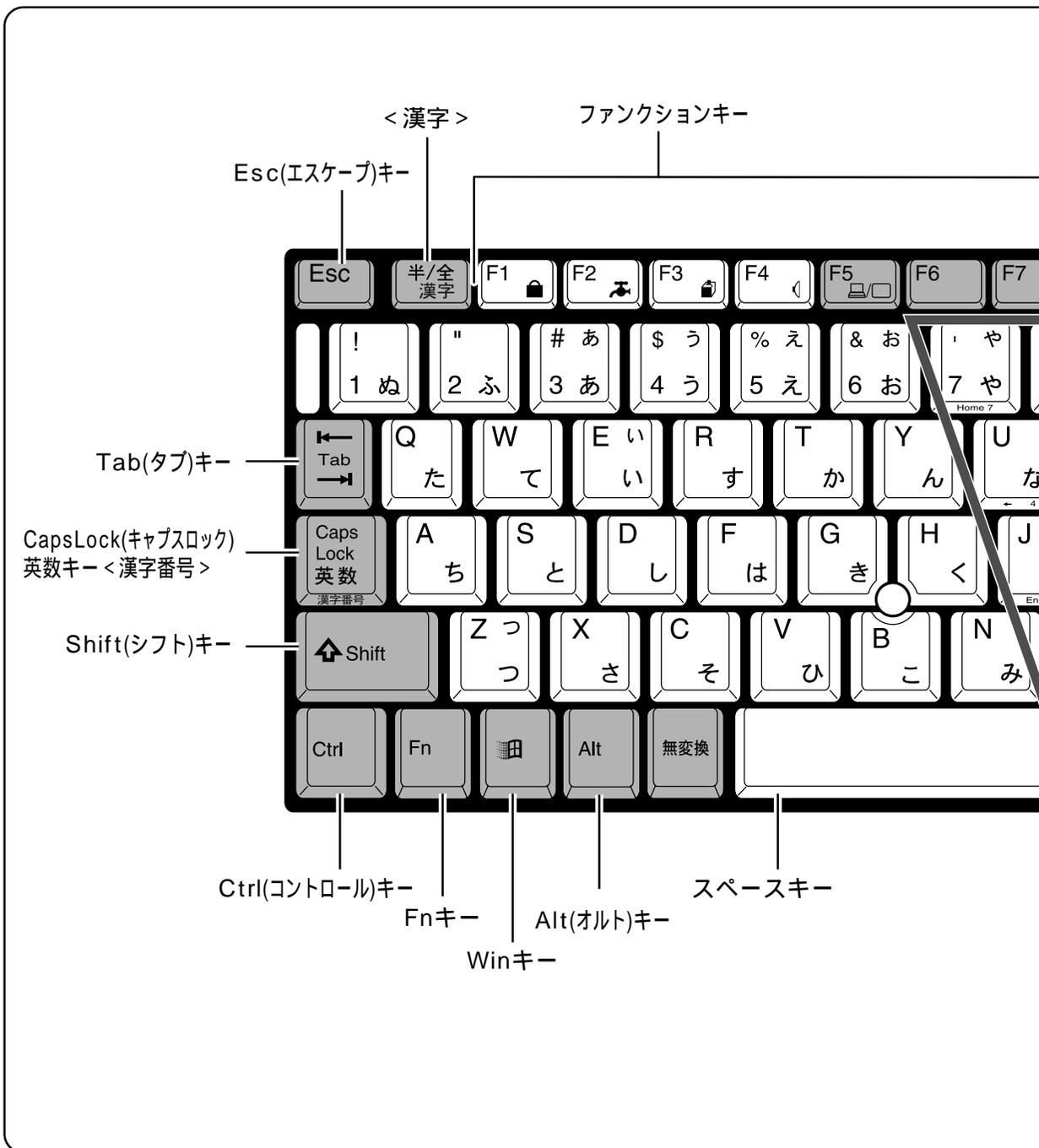
- 9** バッテリーラッチをスライドさせ、バッテリーパックを固定する

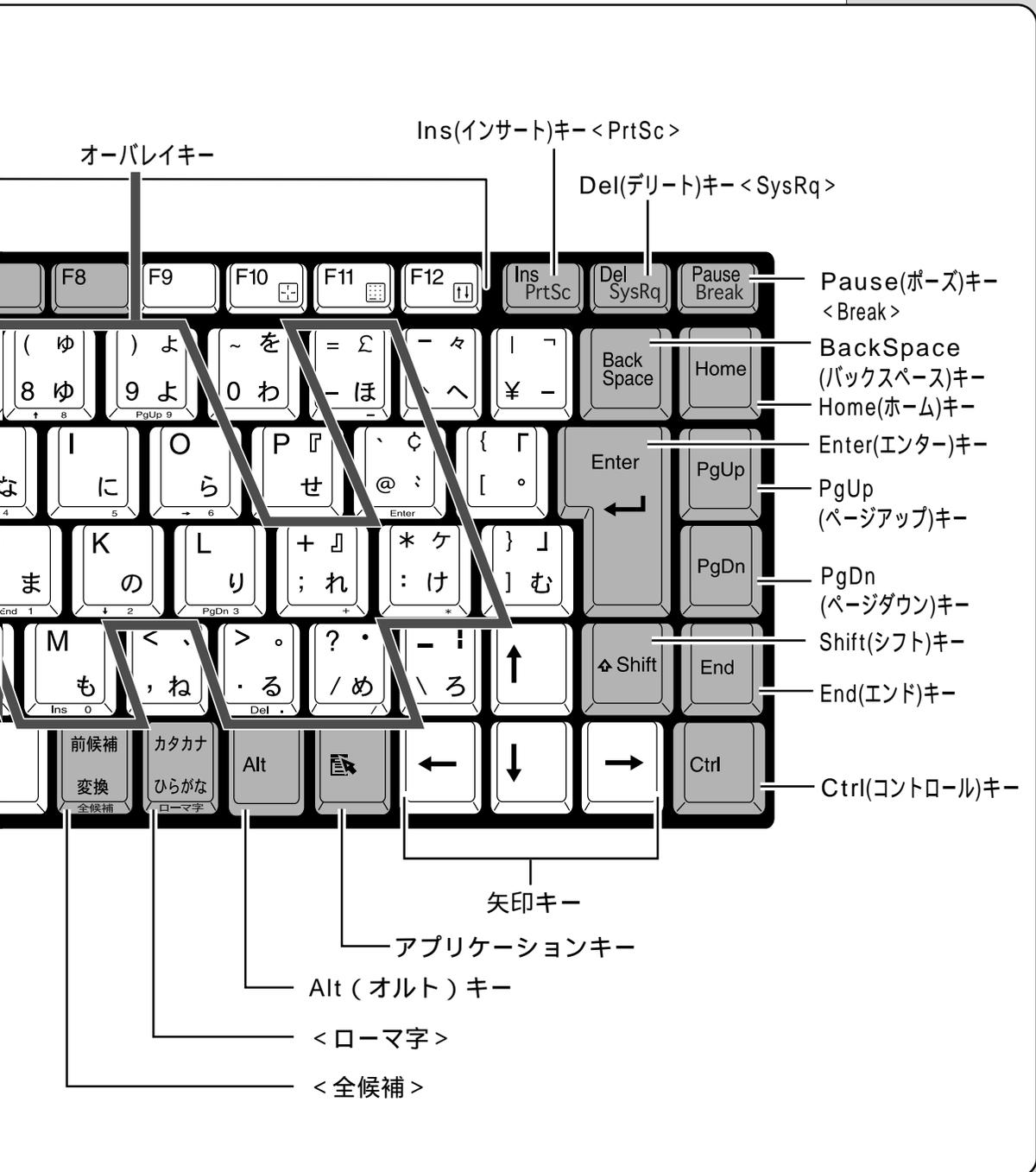


4

キーボード

ここでは基本的な使い方と、それぞれのキーの意味や呼び方について簡単に説明します。
キーボードに印刷されている「£」「¢」「々」などの文字は直接入力できません。
お使いの『日本語入力システムに付属の説明書』をご覧ください。





5章

本体の機能を知ろう

主なキーの呼び方と役割

キー	内容
Esc (エスケープ)	操作を取り消すときに使います。
Shift (シフト)	アルファベットの英大文字、英小文字入力の一時的な切り替えや記号などを入力するときに使います。
Alt (オルト) Ctrl (コントロール)	ほかのキーと組み合わせて、特定の操作を実行するときなどに使います。
田 (ウイン)	Windows のスタートメニューを表示するときに使います。また、他のキーと組み合わせて、ショートカットとして使うこともできます。
Space (スペース)	空白文字を入力するときや、入力した文字をかな漢字変換するときに使います。
鼠 (アプリケーション)	マウスの右ボタンおよびコントロールボタンの下ボタンをクリックすることと同様の動作を行いたいときに使います。
Fn (エフエヌ)	オーバーレイキーを使用するときに使います。また、ファンクションキーとの組み合わせにより特殊機能を実行するときに使用します。
Ins (インサート)	文字の入力モードを挿入 / 上書きに切り替えるときに使います。
Del (デリート)	文字を削除するときなどに使います。
○ ○ ○ ○ (矢印)	カーソル移動などに使います。
Enter (エンター)	作業を実行するときなどに使います。
F1 - F12 (ファンクション)	特定の操作を実行するときなどに使います。

上の表の各内容は、お使いの日本語入力システムやアプリケーションにより変わることがあります。

入力に関する制御キー

キー入力で、よく使う制御キーは次のものがあります。

キー	内容
Ctrl + CapsLock 英数	<p>かな入力ができる状態になります。この状態で文字キーを押すと、キーの右下に印刷されたひらがなを入力できます。</p> <p>MS-IME ツールバーを表示している場合は、[KANA] の文字がくぼんで表示されます。</p> 
Shift + CapsLock 英数	<p>大文字ロック状態になります。この状態で文字キーを押すと、キーの左上に印刷された英字などの文字を、大文字で入力できます。</p> <p>MS-IME ツールバーを表示している場合は、[CAPS] の文字がくぼんで表示されます。</p> 

かな入力や大文字ロック状態を解除するには、もう一度同じキー操作をします。ロック状態の優先度は、かな入力状態 > 大文字ロック状態です。

Fn キーを使った特殊機能キー

キー	内容
Fn + F1 インスタント セキュリティ機能	表示画面をオフにし、キーボードやマウスから入力できなくします。解除するには、パスワードを設定している場合はパスワードを入力し、Enter キーを押します。パスワードを設定していない場合は Enter キーまたは F1 キーを押します。 パスワードは、Toshiba Hardware Setup で設定します。
Fn + F2 省電力モードの設定	Fn + F2 キーを押すと、設定されている省電力ユーティリティの省電力モードが反転表示されます。 Fn キーを押したまま、F2 キーを押すたびに、省電力モードが切り替わります。
Fn + F3 電源 ON / OFF 時に 使用する機能の選択	F3 + F3 キーを押すと、電源を切る状態（シャットダウン、スタンバイ、ハイバネーションなど）のメニューが表示されます。 Fn キーを押したまま、F3 キーを押すたびに、電源を切る状態が切り替わり（反転表示） F3 キーを離すと、切り替わった状態で電源が切れます。
Fn + F4 アラーム音量の調節	アラーム音量を調節します。ピープ音で音量を知らせます。 Fn キーを押したまま、F4 キーを押すたびに音量が変わります。 「OFF 小 中 大」
Fn + F5 表示装置の切り替え	表示装置を切り替えます。 Fn + F5 キーを押すことにより、現在の表示から、次の順で表示が切り替わります。 CD-ROM モデル 「LCD LCD/CRT CRT」 DVD または CD-RW モデル* 「LCD LCD/CRT CRT LCD/TV TV」 * テレビに表示させるには、あらかじめ設定が必要です。  詳細について ● 『活用編 3 章 5 テレビを接続する』  CRT ディスプレイについて ● 『活用編 3 章 8-3 CRT ディスプレイを接続する』
Fn + Shift + キー トップの前面左側に 印刷された文字のキー	キートップ前面左側に灰色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます。 アロー状態を解除するには、もう 1 度 Fn + F10 キーを押します。
Fn + F10 (アロー状態)	



- ・ LCD : 液晶ディスプレイ
- ・ CRT : CRT ディスプレイ
- ・ TV : テレビなど

キー	内容
Fn + キートップの 前面右側に印刷され た文字のキー	キートップ前面右側に灰色で印刷された、数字などの文字を入力できます。 数字ロック状態を解除するには、もう1度Fn + F11
Fn + F11 (数字ロック状態)	キーを押します。
Fn + F12 (スクロールロック状態)	一部のアプリケーションで○○○○キーを画面スクロールとして使用できます。 ロック状態を解除するには、もう1度Fn + F12キーを押します。
Fn + Esc	Fn + Escキーを押すと、設定されているディスプレイの輝度の値が反転表示されます。 Fnキーを押したまま、Escキーを押すたびに、輝度の値が切り替わり、Fnキーを離すと、輝度が実際に切り替わります。

Fnキーを使ったショートカットキー

Fnキーと他のキーとの組み合わせにより、次のようにショートカットとして使用できます。

キー	操作
Fn + R	[ファイル名を指定して実行]ダイアログボックスを表示する
Fn + M	すべてをアイコン化する
Shift + Fn + M	すべてのアイコン化を元に戻す
Fn + F1	Windowsのヘルプを起動する
Fn + E	Windows エクスプローラを起動する
Fn + F	ファイルまたはフォルダを検索する
Ctrl + Fn + F	他のコンピュータを検索する
Fn + Tab	タスクバーのボタンを順番に切り替える
Fn + Break	[システムのプロパティ]ダイアログボックスを表示する

特殊機能キー

複数キーの組み合わせで、特殊機能を実行することができます。

特殊機能	キー	操作
システムの再起動	Ctrl + Alt + Del	プログラムの強制終了画面が表示されます。もう一度押すと、システムを再起動します。
画面コピー	Fn + Ins	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	Alt + Fn + Del	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。



・システムが操作不能になったとき以外は、**Ctrl** + **Alt** + **Del**キーは使用しないでください。データが消失するおそれがあります。

⚠ 注意

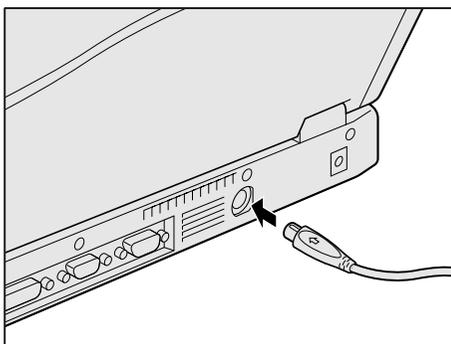
・PS/2 マウスを接続する場合には、必ず電源を切ってから行なってください。電源を入れたまま接続すると、故障のおそれがあります。

1. マウスを取り付ける

本製品に同梱されている PS/2 マウスを、パソコン本体の PS/2 コネクタに接続して使用することができます。

取り付け

- 1 PS/2 コネクタに、PS/2 マウスのプラグを差し込む
接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。



・PS/2 マウスの接続は、Windows のセットアップが終了した後に行なってください。

取りはずし

- 1 パソコン本体に差し込んである PS/2 マウスのプラグを持って抜く

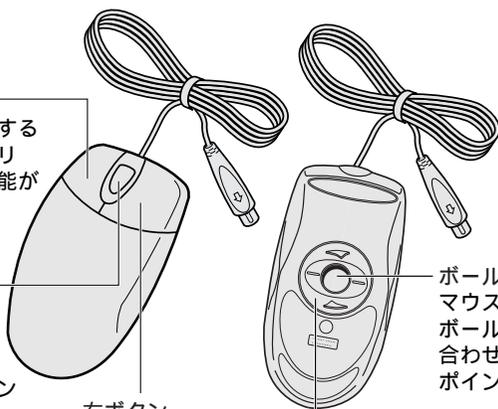
2. マウスの使い方

本製品に同梱されているPS/2マウスは、アキュポイント とコントロールボタンの組み合わせと同じ働きをします。

左ボタン
文字やアイコンを選択することができます（アプリケーションにより、機能が異なります）。

ホイール
画面のスクロールなどができます（ホイール付きマウス対応のアプリケーションで使用できます）。

右ボタン
操作を取り消したり、文字やアイコンのコピーなどを行います（アプリケーションにより、機能が異なります）。



ボール
マウスの中に入っています。ボールが転がる方向に合わせて画面上のマウスポインタが移動します。

ボール固定用フタ
ボールがとび出さないように押さえているフタです。マウスのお手入れのときのみ、取りはずしてください。

動かし方

マウスを動かすと、内部のボールが転がる方向にあわせて、マウスポインタが画面上を移動します。画面上のマウスポインタを見ながらマウスを動かしてください。マウスを動かす場所がなくなったときは、マウスを1度持ち上げて、動かしやすい場所に戻してください。なお、マウスを空中で動かしてもマウスポインタは移動しません。

クリック	マウスでマウスポインタを合わせて、ボタンを1回押します。特に指定がない場合は左ボタンを使用します。
ダブルクリック	マウスでマウスポインタを合わせて、ボタンを、すばやく2回続けて押します。特に指定がない場合は左ボタンを使用します。
ドラッグアンドドロップ	マウスのボタンを押したまま、マウスポインタを移動します（ドラッグ）。特に指定がない場合は左ボタンを使用します。ドラッグの操作の最後に、目的の場所でボタンから指を離します（ドロップ）。
スクロール	画面を上下に動かす動作のことをいいます。ホイールを回すと画面がスクロールします。



お願い

- マウスは平らな机の上などで使用してください。ボールが転がりにくい場所で使用すると、マウスポインタの動きが鈍くなる場合があります。
- マウスは手のひらで包むように持って、滑らせるように動かしてください。押さえつけて動かすと故障の原因になります。



- マウスボタンやホイールの機能の割り当ては、Windowsの[マウスのプロパティ]で変更することができます。[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[マウス]をダブルクリックします。
- 左ききの方がお使いになる場合など、[ボタン]タブで左右のボタンの役割を替えたり、ホイールの機能を変更することもできます。

6

フロッピーディスク

⚠ 注意

- ・ FDD/CD-ROM  LED が点灯中は、電源を切ったり、フロッピーディスク装置のイジェクトボタンに触れたり、パソコン本体を動かしたりしないでください。
フロッピーディスクのデータやフロッピーディスク装置が壊れるおそれがあります。

1. フロッピーディスク

 フロッピーディスクとは ▶ 「4章 1-1 記憶装置」

使用できるフロッピーディスクの種類とその容量

フロッピーディスクに保存できる容量は、次のとおりです。

フロッピーディスクの種類	1枚に保存できる容量
2DDタイプ	720MB
2HDタイプ	1.2MB
2HDタイプ	1.44MB

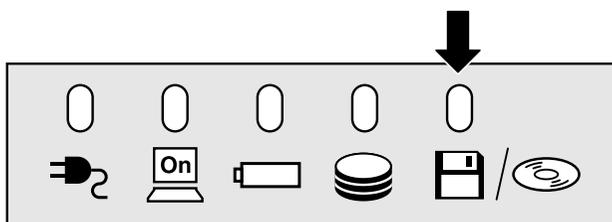
1枚あたりに保存できる容量は、フォーマットのときに指定します。

 フォーマットについて

▶ 「本節 フロッピーディスクを使う前に - フォーマットとは」

フロッピーディスク装置に関する表示

フロッピーディスクとデータをやり取りしているときは、FDD/CD-ROM  LED が点灯します。



- ・ Windows用にフォーマットされていないフロッピーディスクを使用する場合は、フォーマットが必要です。
- ・ 1.2MBの容量にフォーマットすることはできません。1.2MBのフロッピーディスクへは、読み出しと書き込みができます。

5章

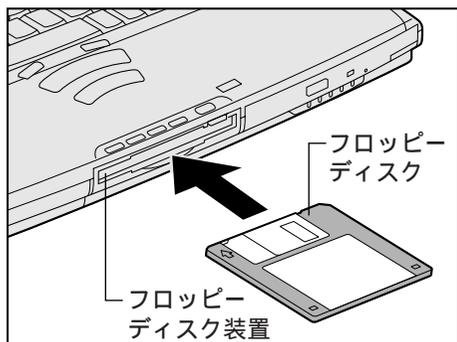
本体の機能を知ろう

2. フロッピーディスクのセットと取り出し

フロッピーディスクをフロッピーディスク装置に挿入することを「フロッピーディスクをセットする」といいます。

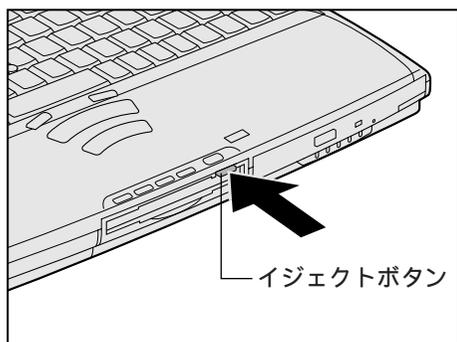
フロッピーディスクのセット

- 1 フロッピーディスクの隅にかかっている矢印の向きにあわせて挿入する
「カチッ」と音がするまで挿入します。正しくセットされるとイジェクトボタンが出てきます。



フロッピーディスクの取り出し

- 1 イジェクトボタンを押す
フロッピーディスクが少し出てきます。そのまま手で取り出します。



フロッピーディスクの内容を見る

- 1 デスクトップの [マイ コンピュータ] をダブルクリックする
[マイ コンピュータ] 画面が開きます。
- 2 [3.5 インチ FD (A:)] () をダブルクリックする
[3.5 インチ FD (A:)] 画面が開き、セットしたフロッピーディスクの内容が表示されます。

3. フロッピーディスクを使う前に - フォーマットとは

新品のフロッピーディスクは、使用するシステム(OS)にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。新品のフロッピーディスクには、データを扱うための基本情報が何も書かれていないからです。フォーマットを行うと、フォーマットを行なったシステムにあわせて、データの書き込みや読み出しができるように基本情報が書き込まれます。

新品のフロッピーディスクには、システムの種類別にフォーマットされているものと、フォーマットを行わずに販売されているものがあります。新品のフロッピーディスクを使用する場合は、「Windows フォーマット済み」かどうか確認してください。フォーマットされていないフロッピーディスクを使うときは、必ずフォーマットを行なってください。

他のシステムで使われていたフロッピーディスクも、もう1度本製品でフォーマットすることにより、本製品で使用することができます。

フォーマット方法

Windowsでのフォーマット方法を簡単に説明します。詳細については、Windowsのヘルプをご覧ください。

- 1 フロッピーディスク装置に、フォーマットするフロッピーディスクをセットする
- 2 デスクトップ上の [マイ コンピュータ] をダブルクリックする
- 3 [3.5 インチ FD (A:)] () をクリックする
[3.5 インチ FD (A:)] が選択され、アイコンの色が反転します。
- 4 [マイコンピュータ] 画面で [ファイル (F)] メニューから [フォーマット (M)] をクリックする
アイコンを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。フォーマット方法を選択する画面が表示されます。



- ・フォーマットを行うと、そのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消えます。一度使用したフロッピーディスクをフォーマットする場合は注意してください。



- ・他社のパソコンでフォーマットしたフロッピーディスクの中には使用できないものがあります。
- ・2HDフロッピーディスクを2DDタイプでフォーマットしたり、またその逆でのフロッピーディスクの使用はできません。正しくフォーマットされているフロッピーディスクを使用してください。
- ・フォーマット形式は、2DDの場合は720KB、2HDの場合は1.44MBのみになります。

5章

本体の機能を知ろう

5 フォーマット方法を選択し、[開始 (S)] ボタンをクリックする
フォーマットが開始されます。フォーマットが終了すると、フロッピー
ディスクの情報が表示されますので確認してください。

6 [フォーマット結果] の内容を確認し、[閉じる] ボタンをク
リックする

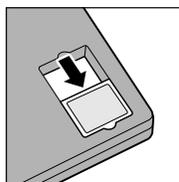
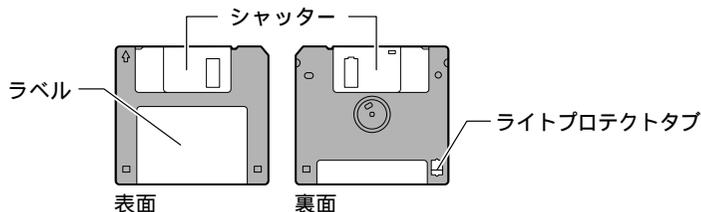
これで、フォーマットは完了です。

他のフロッピーディスクも続けてフォーマットする場合は、フロッピー
ディスクを入れ替えて、手順 5 から実施します。

フォーマットを終了する場合は、[閉じる] ボタンをクリックします。

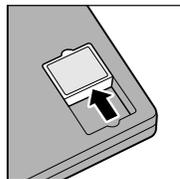
ライトプロテクトタブを使う

フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤って
データを消したりしないようにすることができます。



書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させ
て、穴が開いた状態にします。この状態のフロッピーディスク
には、データの書き込みはできません。データの読み取りはで
きます。



書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させ
て、穴が閉じた状態にします。この状態のフロッピーディスク
には、データの書き込みも読み取りもできます。

 フロッピーディスクの取り扱いについて ▶ 「本章 10-フロッピーディスク」



・初めてフォーマットするフ
ロッピーディスクの場合、
多少時間がかかります。

警告

- ・CD-ROM 装置 / CD-RW 装置 / DVD-ROM 装置はサービスマン以外の方は絶対に分解しないでください。内部にはレーザー光線が使用されており、万一、分解または不適切な使用、修理などがあると、人体への悪影響(目の痛みなど)をおよぼすおそれがあります。

注意

- ・ディスクトレイ内のレンズおよびその周辺に触れないでください。CD-ROM 装置 / CD-RW 装置 / DVD-ROM 装置の故障の原因になります。
- ・FDD/CD-ROM /  LED およびディスクトレイ LED が点灯しているときは、CD-ROM 装置 / CD-RW 装置 / DVD-ROM 装置が動作しています。このときはイジェクトボタンを押さないでください。CD / DVD が傷ついたり、またはCD-ROM 装置 / CD-RW 装置 / DVD-ROM 装置の故障の原因となります。
- ・FDD/CD-ROM /  LED が点灯しているときは、CD / DVD を取り出さないでください。CD / DVD のデータやCD-ROM 装置 / CD-RW 装置 / DVD-ROM 装置が壊れるおそれがあります。
- ・電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。回転中のCD / DVD のデータやCD-ROM 装置 / CD-RW 装置 / DVD-ROM 装置が壊れるおそれがあります。
- ・CD-ROM 装置 / CD-RW 装置 / DVD-ROM 装置のトレイを開けたときに、CD / DVD が回転している場合には、停止するまでCD / DVD に手を触れないでください。ケガのおそれがあります。

本製品にはモデルによってCD-ROM 装置、CD-RW 装置、またはDVD-ROM 装置が内蔵されています。

 CD-ROM / CD-RW / DVD-ROM とは ▶ 「4 章 1-1 記憶装置」

お願い

- ・CD-ROM 装置 / CD-RW 装置 / DVD-ROM 装置はレーザー光線を使用しています。製品を安全に使用するため、本書をよく読んでからお使いください。機器に保守・修理が必要になった場合には、お近くの保守サービスにご相談ください。

1. CD / DVD

CD-ROM 装置 / CD-RW 装置で利用できる CD

CD-ROM 装置 / CD-RW 装置で読み込みできる CD は、次の種類です。

音楽用 CD

8cm または 12cm の音楽用 CD が聴けます。

▶ 「本節 4-音楽 CD を聴く」

フォト CD

CD-ROM

使用するシステムに適合する ISO 9660 フォーマットのもので使用できます。

CD エクストラ

CD-R

CD-RW

CD-RW 装置で書き込みできる CD は、次の種類です。

CD-RW

CD-R (書き込みは一回限り)

DVD-ROM 装置で利用できる CD / DVD

DVD-ROM 装置で利用できる CD / DVD は、次の種類です。(読み込みのみ)

上記の CD

DVD-ROM

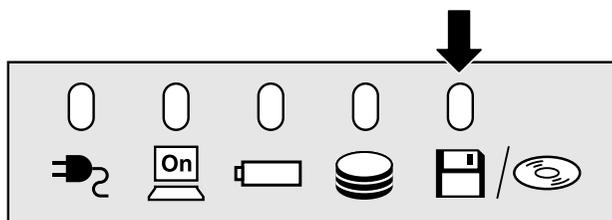
DVD-Video

▶ 「本節 4-DVD-Video を再生する」

 CD-ROM / DVD-ROM の取り扱いについて ▶ 「本章 10- CD / DVD」

CD-ROM 装置 / CD-RW 装置 / DVD-ROM 装置に関する表示

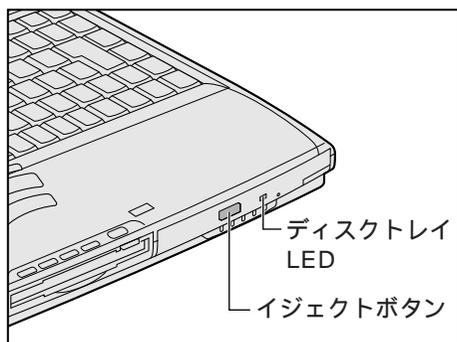
CD-ROM 装置 / CD-RW 装置 / DVD-ROM 装置が動作しているときは、FDD / CD-ROM  /  LED が点灯します。



2. CD / DVDのセットと取り出し

*イラストはCDモデルです。

CD / DVDは、電源が入り、FDD/CD-ROM  LEDが消灯しているときにセット/取り出しができます。



次の場合は、ディスクトレイはイジェクトボタンを押しても出てこない、またはすぐには出てきません。

電源を入れた直後

リセットした直後

ディスクトレイを閉じた直後

これらの場合には、ディスクトレイLEDの点滅が終了したことを確認してから、イジェクトボタンを押してください。

CD / DVDのセット

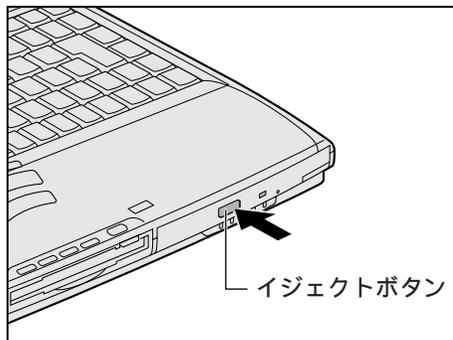
CD-ROM装置 / CD-RW装置 / DVD-ROM装置へCD / DVDをセットするには、次のように行います。

1 パソコン本体の電源を入れる、またはCD電源スイッチを左へスライドする

 参照 CD電源スイッチ  「本節 4 CD操作ボタンを使う」

2 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンを押したら、ボタンから手を離してください。ディスクトレイが少し出てきます（数秒かかることがあります）。



- ・パソコン本体を携帯するときは、CD-ROM装置 / CD-RW装置 / DVD-ROM装置にCD / DVDが入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出ししてください。

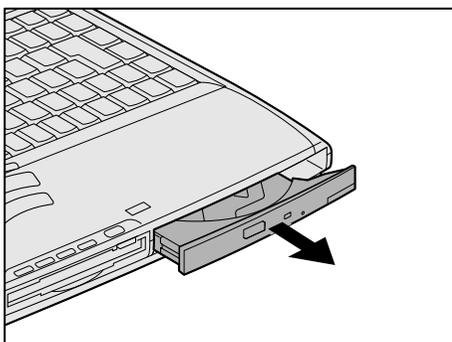


- ・Windowsが起動したとき、FDD/CD-ROM  LEDが周期的に薄く点灯します。これはCD / DVDの自動挿入を検出しているためで、故障ではありません。
- ・電源が入っていないと、イジェクトボタンを押しても、ディスクトレイは出てきません。

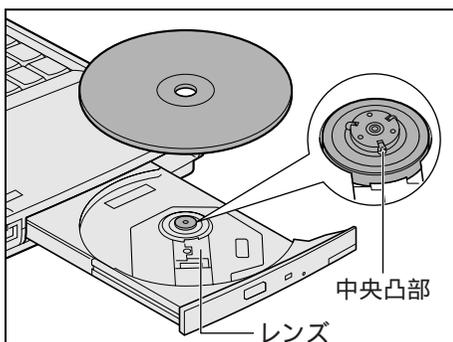
5章

本体の機能を知ろう

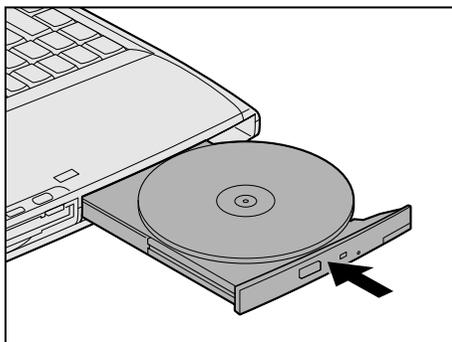
- 3** ディスクトレイを引き出す
CD / DVD をのせるトレイが
すべて出るまで、引き出します。



- 4** 文字が書いてある面を上
にして、CD / DVD の穴
の部分ディスクトレイ
の中央凸部分に合わせ、
上から押さえてセットする
カチッと音がして、セットさ
れていることを確認してくだ
さい。



- 5** 「カチッ」と音がするま
で、ディスクトレイを押
し戻す



CD / DVD の取り出し

- 1** パソコン本体の電源を入れる、またはCD電源スイッチを左へスライドする
- 2** イジェクトボタンを押す
ディスクトレイが少し出てきます。
- 3** ディスクトレイを引き出す
CD / DVD をのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

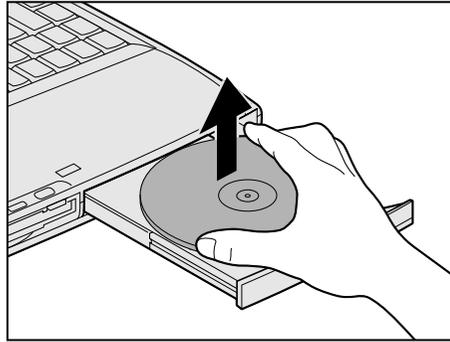


- ・CD / DVD をディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
- ・CD / DVD を正しくディスクトレイにセットしないとCD/DVDを傷つけることがあります。



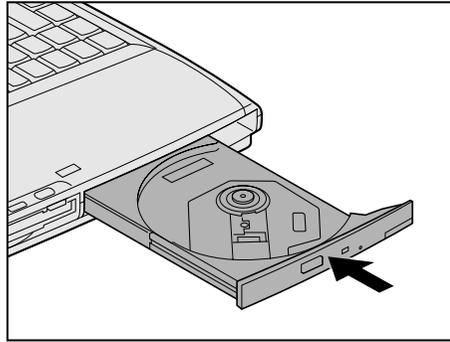
- ・傷ついたり汚れのひどいメディアは、メディアを挿入してから再生が開始されるまで、時間がかかる場合があります。その場合、そのまましばらくお待ちください。再生が開始されます。
- ・メディアの特性や書き込み時の特性によって、読み込めない場合もあります。
- ・DVD-ROM 装置のDVDリージョン番号 (DVD構成コード) は「2」です。DVDビデオディスク再生限定地域を表すリージョン番号が表示されている場合、そのリージョン番号の中に「2:ヨーロッパ、中東、日本、南アフリカ」が含まれていないと再生できません。

- 4** CD / DVDの両端をそっと持ち、上に持ち上げて取り出す
ディスクトレイからCD / DVDを取り出します。



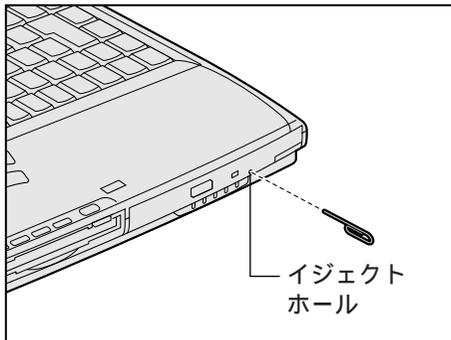
CD / DVDを取り出しにくいときは、中央凸部を少し押ししてください。簡単に取り出せるようになります。

- 5** 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す



ディスクトレイが出てこない場合

電源を切っているときにイジェクトボタンを押しても、ディスクトレイは出てきません。故障などで電源が入らない場合は、CD-ROM 装置 / CD-RW 装置 / DVD-ROM 装置のイジェクトホールを、先の細い、丈夫なもの（例えば、クリップを伸ばしたもの）で押ししてください。ディスクトレイが出てきます。



- ・パソコン携帯時は、CD-ROM装置 / CD-RW装置 / DVD-ROM装置に入っているCD / DVDは取り出してください。
- ・電源を入れ、CD-ROM装置 / CD-RW装置 / DVD-ROM装置のインジケータが点滅しなくなったことを確認してから、CD-ROM装置 / CD-RW装置 / DVD-ROM装置のイジェクトボタンを押してください。点滅しなくなったことを確認しないと、ディスクトレイが出てこない場合があります。

5章

本体の機能を知ろう

3. CD-RW / CD-R に書き込む

CD-RW モデルでは、CD-RW / CD-R にデータを書き込むことができます。書き込みを行うためのソフトウェアとして、Adaptec社製「DirectCD」「Easy CD Creator」をご用意しています。

CD-RW / CD-R に書き込みを行うときは、次のご注意をよくお読みのうえご使用ください。

守らずにご使用になると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ご使用のパソコンの設定によっては、書き込みに失敗することがあります。

書き込みに失敗したCD-Rの損害については、当社は一切その責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、CD-RW / CD-R に保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。

書き込む前に

CD-RW / CD-R は 4 倍速以上に対応しているものをご使用ください。次のメーカーの CD-RW / CD-R をご使用になることをおすすめします。

CD-RW : 三菱化学(株) リコー(株)

CD-R : 太陽誘電(株) TDK(株) 三井化学(株) 三菱化学(株)
リコー(株) 日立マクセル(株)

上記以外のメーカーの CD-RW / CD-R をご使用になると、うまく書き込みができない場合があります。

必ず AC アダプタを接続して電源コンセントに接続してください。バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などにより書き込みに失敗するおそれがあります。

スクリーンセーバなど CPU に負担のかかるソフトウェアは動作しないように設定してください。

ウィルスチェックソフトを起動している場合は、終了させてください。常駐型のディスクユーティリティやディスクのアクセスを高速化するユーティリティなどは、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことをおすすめします。

「DirectCD」「Easy CD Creator」以外の CD-RW / CD-R 書き込み用ソフトウェアをご使用になる場合は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。

 省電力機能について ● 『活用編 1 章 2-省電力ユーティリティ』

書き込みを行うときは

マウスやアキュポイント を動かす、ウィンドウを開くなど、パソコン本体の操作を行わないでください。

モデムなど、通信アプリケーションを起動しないでください。

パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。

次の機器の取り付け / 取りはずしを行わないでください。

PC カード、USB 機器、CRT ディスプレイ、COMMS コネクタに接続している機器、PRT コネクタに接続している機器



- ・CD-R に書き込みできるのは 1 回限りです。書き込みに失敗した CD-R は再利用できませんが、CD-RW はフォーマットすると再利用できます。



- ・「Easy CD Creator」を使用して重要なデータを書き込む場合は、CD レイアウトプロパティで [書き込み後 CD 上のファイルを検証する] を設定してください。

4. CD操作ボタンを使う

音楽CDを聴く

CD操作ボタンを使うと、パソコンの電源を入れていない状態で、ディスプレイを閉じたまま簡単に音楽CDを聴くことができます。

1 CD電源スイッチを左へスライドする

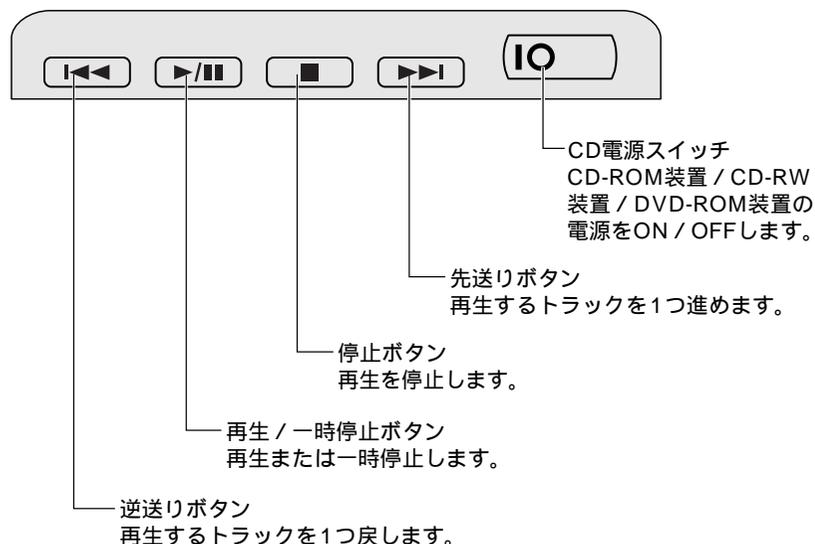
CD-ROM装置 / CD-RW装置 / DVD-ROM装置の電源が入ります。電源を入れてから、4分以上、CD操作ボタンの操作がない場合は、自動的に電源がOFFの状態になります。その場合はもう一度同じように電源を入れ直してください。

2 音楽CDをセットする

 CDのセットのしかた ▶ 「本節-2 CD / DVDのセットと取り出し」

3 CD操作ボタンを押す

CD操作ボタンの各ボタンの役割は次のとおりです。



終了する場合は、電源を入れるときと同じようにCD電源スイッチを左へスライドします。



- ・システムが起動しているときは、CD電源スイッチの操作は必要ありません。CD操作ボタンの操作で音楽CDを聞くことができます。
- ・音楽CDの再生中に、パソコン本体に振動・衝撃を与えると、音飛びすることがあります。

5章

本体の機能を知ろう

DVD-Video を再生する

DVDモデルでは、DVD-Videoを再生するときに、CD操作ボタンを使って簡単に操作できます。

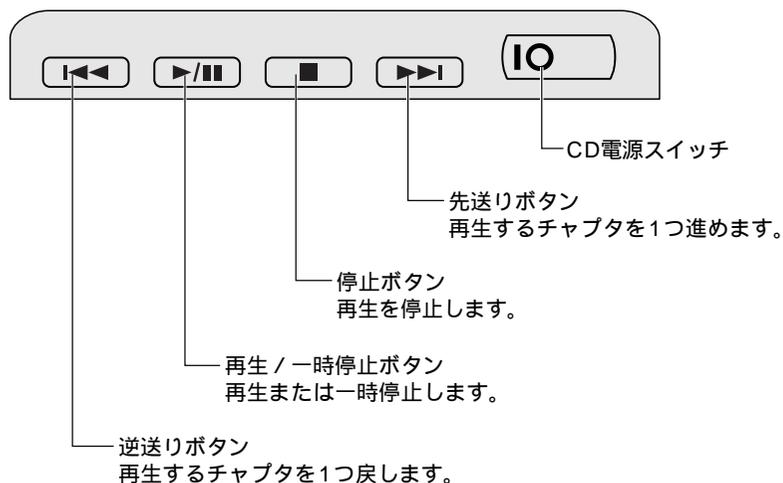
1 パソコン本体の電源を入れる

2 DVD-Video をセットする

● 「本節 2 CD / DVD のセットと取り出し」

3 CD 操作ボタンを押す

CD 操作ボタンの各ボタンの役割は次のとおりです。



・セットアッププログラムで「CD Power SW Mode」を「Boot (DVD Play)」に変更した場合、CD 電源スイッチを左へスライドするとパソコンの電源が入り、Windows が起動した後、DVDを再生するアプリケーションソフトが起動します。



セットアッププログラム
● 『活用編 4章 2 セットアッププログラム』

8 サウンド

本製品はサウンド機能を内蔵し、スピーカを用意しています。また標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。

サウンド機能はMicrosoft Windows Sound System、およびSound Blaster Proに適合しています。

スピーカの音量調整は、ボリュームダイヤル、またはWindowsの「ボリュームコントロール」を使用します。

ボリュームダイヤルで調整する

音量を大きくしたいときには奥に、小さくしたいときには手前に回します。

 ボリュームダイヤル ▶ 「本章 1 各部の名前」

ボリュームコントロールで調整する

起動方法

- 1 タスクバー上の[スピーカ]アイコン()をダブルクリックするまたは、[スタート]-[プログラム]-[アクセサリ]-[エンターテイメント]-[ボリュームコントロール]をクリックする

ボリュームコントロールが起動します。

- 2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する

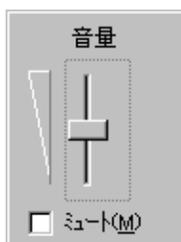
つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。[ミュート]をチェックすると、消音になります。

詳しくは、「ボリュームコントロール」のヘルプをご覧ください。

タスクバーの[スピーカ]アイコン()でスピーカの音量を調整することもできます。[スピーカ]アイコンでの調整方法は次のとおりです。

[スピーカ]アイコンをクリックする

- 1 タスクバー上の[スピーカ]アイコン()をクリックする
次の画面が表示されます。



- 2 つまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。[ミュート]をチェックすると、消音になります。

使用するアプリケーションによっては、外部マイクとスピーカでハウリングを起こし、高く大きな音が発生することがあります。この場合は、次のようにしてください。

- 本製品のボリュームダイヤルで音量を調整する
- 使用しているアプリケーションの設定を変える
- 外部マイクをスピーカから離す

システムスピーカを設定する

システムスピーカを設定すると、パソコンのハードウェアの状態を知ることができます。ご購入時は「鳴らす」に設定されています。

設定方法

- 1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする
- 2 [Toshiba Hardware Setup] をダブルクリックする
- 3 [Hardware Alarm] タブで設定する
鳴らす場合は [System Beep] をチェック () します。
音量は [Alarm Volume] のスライダーバーをドラッグして調整します。

⚠ 注意

- ・内蔵モデムは使用できる国や地域が限定されます。指定以外の国、地域で内蔵モデムを使用すると故障のおそれがあります。使用できる国や地域をよくご確認ください。
- ・内蔵モデムは一般電話回線（アナログ回線）に接続して使用してください。デジタル回線（ISDN回線など）には接続できません。デジタル回線対応の公衆電話のデジタル側やデジタル式交換機（PBX）へ接続すると、故障のおそれがあります。ホームテレホンやビジネスホン用の電話回線には絶対に接続しないでください。

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90 および K56flex に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90またはK56flex以外の場合は、最大33.6Kbpsで接続されます。

本製品の内蔵モデムは、次の国で使用できます。

アイルランド、アメリカ合衆国、イギリス、イタリア、オーストラリア、オーストリア、オランダ、カナダ、ギリシャ、スイス、スウェーデン、スペイン、デンマーク、ドイツ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、フィンランド、フランス、ベルギー、ポルトガル

また、公衆回線網の通信規格は各国により異なりますので、ご使用になる国にあわせて内蔵モデムの国設定が必要です。ご購入時は「日本」に設定されています。

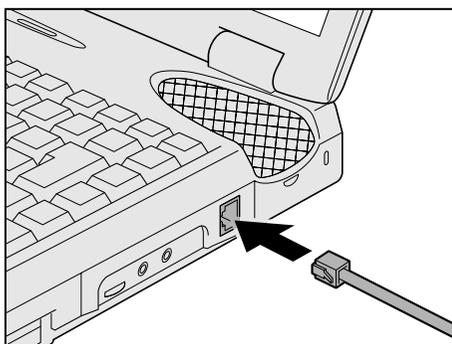
📖 モデムの国設定

▶ 《オンラインマニュアル-内蔵モデム用国選択ユーティリティ》

取り付け

1 モジュラーケーブルのプラグの一方をパソコン本体のモジュラージャックに差し込む

「カチッ」と音がするまで確実に押し込んでください。



2 もう一方のモジュラープラグを電話機用モジュラージャックに差し込む

ISDN回線に接続する場合は、ご使用のターミナルアダプタ（TA）またはダイヤルアップルータのアナログポートへ接続してください。

🙏 お願い

- ・モジュラーケーブルの取り付け/取りはずしは、パソコンの電源を切った状態で行ってください。

🙏 お願い

- ・市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に影響を与えることがあります。
- ・回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。
- ・雷雲が近づいてきたときは、モジュラープラグを電話回線用モジュラージャックから抜いてください。電話回線に落雷した場合、モデムやパソコン本体が破壊されるおそれがあります。
- ・モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。

取りはずし

- 1 パソコン本体と電話機用モジュラージャックに差し込んであるモジュラープラグを抜く

インターネットへの接続については、『インターネットに接続しよう!』をご覧ください。

⚠ 注意

- ・お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードを AC 電源から抜いてください。電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。
- ・機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。
製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。
- ・水や中性洗剤は、絶対に本製品に直接かけないでください。本製品が傷んだり故障するおそれがあります。
- ・シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんなどは使わないでください。本製品が傷んだり故障するおそれがあります。

日常の取り扱いでは、次のことを守ってください。

パソコン本体

機器の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。

汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってから拭きます。

ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。

ディスプレイは静かに閉じてください。

使用できる環境は次のとおりです。

温度 5 ~ 35 、湿度 20 ~ 80%

次のような場所で使用や保管をしないでください。

直射日光の当たる場所

非常に高温または低温になる場所

急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）

強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く）

ホコリの多い場所

振動の激しい場所

薬品の充満している場所

薬品に触れる場所

持ち運ぶとき

持ち運ぶときは、誤動作や故障を起こさないために、次のことを守ってください。

電源は必ず切ってください。

電源を切った後も、Disk  LED が点灯中は動かさないでください。

急激な温度変化（寒い屋外から暖かい屋内への持ち込みなど）を与えないでください。

やむなく急な温度変化を与えてしまった場合は、数時間たってから電源を入れるようにしてください。

外付けの装置やケーブルは取りはずしてください。また、フロッピーディスクや CD / DVD がセットされている場合は、取り出してください。

落としたり、強いショックを与えないでください。また、日の当たる自動車内に置かないでください。

故障の原因になります。

消耗品について

次の部品は消耗品です。

バッテリーパック（充電式リチウムイオン電池）

長時間の使用により消耗し、充電機能が低下します。充電機能が低下した場合は、別売りのバッテリーパック（PA2487U1）と交換してください。

時計用バッテリー（交換は有償です）

アキュポイントキャップ（交換は同梱されているものを使用してください）
消耗した場合は、お使いの機種をご確認後、お買い求めの販売店、または保守サービスにご相談ください。

仕様について

本製品の仕様は国内向けです。国外で本製品を使用する場合は、電源に合った電源コードをお買い求めください。

電源コード

電源コードのプラグを長期間に渡ってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にはこりを拭き取ってください。

キーボード

乾いた柔らかい素材のきれいな布で拭いてください。

汚れがひどいときは、水中性洗剤を布に含ませ、強くしぼって拭きます。

キーのすきまにゴミが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、お使いの機種をご確認後、お買い求めの販売店、または保守サービスにご相談ください。

コーヒーなど飲み物をこぼしたときは交換を依頼してください（有償）。

液晶ディスプレイ

画面の手入れ

画面の表面には偏向フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。

表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。

無理な力の加わる扱い方、使い方をしないでください。

液晶表示素子は、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。そのため、圧力がかかると配向が乱れ、元に戻らなくなる場合があります。

サイドライト用FL管について

ディスプレイに装着されているサイドライト用FL管（冷陰極管）は、ご使用になるにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、お使いの機種をご確認後、お近くの保守サービスにご相談ください。有償にて交換いたします。

表示について

TFTカラー液晶ディスプレイは、非常に高精度な技術を駆使して作られていますが、一部に表示不良画素（欠け、常時点灯など）が存在することがあります。これらの表示不良画素は、少量に抑えるよう管理していますが、現在の最先端の技術でも表示不良画素をなくすことは困難ですので、ご了承ください。

DSTNカラー液晶ディスプレイには、性質上表示ムラやドット不良が存在することがありますが、故障ではありません。また、非常に高度な技術を駆使して作られていますが、構造上まれに画面中央の水平方向に細かいすじが見ることがあります。現在の最先端の技術でもこれらのすじをなくすことは困難ですので、ご了承ください。

アキュポイント（ポインティング装置）

アキュポイント は、ハンドクリームや油などのついた手で操作したり、油性の液体をつけたりしないでください。操作時にすべりやすくなったり、アキュポイントキャップが劣化する（溶ける）おそれがあります。アキュポイントキャップがすりきれたら取り換えてください。

携帯電話、無線機など電波を発生する機器が近くにあるときにマウスポイントが移動する場合があります。その場合は、電波を発生する機器を離してください。

キャップの取り換え

予備として6個のアキュポイントキャップが同梱されています。長期間使用し、すり切れたら取り換えてください。取り換え方法は次のとおりです。

- 1 アキュポイントキャップをしっかりとつまんで垂直に引き上げる
- 2 新しいアキュポイントキャップを切り込みにあわせてアキュポイント にはめる

フロッピーディスク装置

市販のクリーニング用品を使ってフロッピーディスク装置をクリーニングします。1ヶ月に1回を目安にクリーニングしてください。

CD-ROM / CD-RW / DVD-ROM 装置

ディスクトレイを引き出したままにしないでください。

市販のクリーニング用品を使って、1ヶ月に1回を目安にCD-ROM 装置 / CD-RW / DVD-ROM 装置をクリーニングしてください。



- ・スペアのアキュポイントキャップをお買い求めになる場合は、お近くの保守サービスにご相談ください。

5章

本体の機能を知ろう

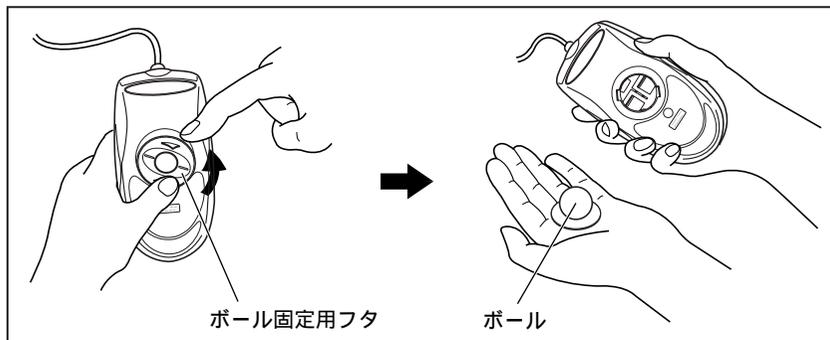
マウス

マウスを長時間使用していると、ホコリなどがボールに付着し正常なマウスの動作を妨げ、動作不良の原因となることがあります。

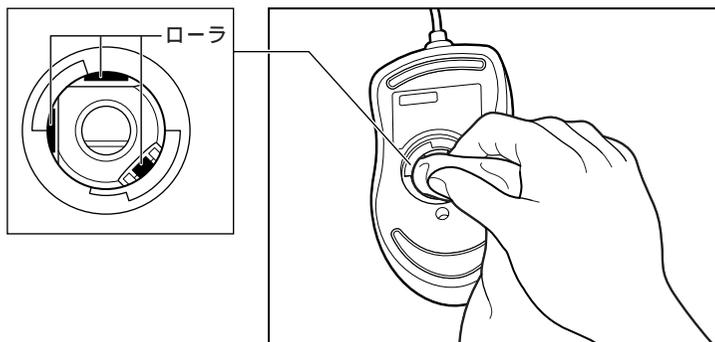
マウスのお手入れは、次の手順で行なってください。

パソコン本体の電源を切ってください。

マウス本体の裏面にあるボール固定用のフタを、矢印方向に回転させてはずし、ボールを取り出します（ネジは、絶対にはずさないでください）。



マウス内部のローラなどに付着した異物は、乾いた布で取り除いてください。



ボールを、水で洗います（中性洗剤を使用する場合はよくすすぎます）。乾いた布でボールの水分を拭き取り、十分乾燥させてからマウス本体に取り付けます。

ボール固定用のフタを、矢印方向と反対方向に回転させて取り付けます。フタは、カチッと音がするまで回転させてください。



・ボール固定用のフタ以外は、絶対に分解しないでください。

フロッピーディスク

フロッピーディスクは消耗品です。傷がついた場合は交換してください。
フロッピーディスクを取り扱うときには、次のことを守ってください。

フロッピーディスクに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。
フロッピーディスクに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

シャッター部を開けて磁性面を触らないでください。

汚れると使用できなくなります。

スピーカなど強い磁気を発するものに近づけないでください。

記録した内容が消えるおそれがあります。

直射日光に当てたり、高温のものに近づけないでください。

本やノートなど重いものを上に置かないでください。

使用場所、保管場所の温度は次のとおりです。

環境	使用時	保管時
温度	5 ~ 35	4 ~ 53

ラベルは正しい位置に貼ってください。

貼り替えるときに重ね貼りをしないでください。

ホコリの多い場所、タバコの煙が充満している場所に置かないでください。

保管の際は、プラスチックケースに入れてください。

食べ物、タバコ、消しゴムのカスなどの近くにフロッピーディスクを置かないでください。

3.5 型フロッピーディスクは当社の次の製品をお使いください。

他のフロッピーディスクは、規格外などで使用できなかつたり、フロッピーディスク装置の寿命を縮めたり、故障の原因となる場合があります。

製品番号	形式
M4293	2HD形式
M4216	2DD形式

CD / DVD

CD / DVDの内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってお取り扱いください。

CD / DVDを折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD / DVDを読み込むことができなくなります。

CD / DVDを直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD / DVDの上に重いものを置かないでください。

CD / DVDは専用のケースに入れ、清潔に保護してください。

CD / DVDを持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。表面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。

CD / DVDの表面に文字などを書かないでください。

CD / DVDが汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布で拭き取ってください。

円盤に沿って環状に拭くのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状に拭くようにしてください。乾燥した布では拭き取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。

記号

キーを使ったショートカットキー 109

A

ACアダプタ 19, 87
Altキー 104, 105
Arrow Mode LED 94, 95

B

BackSpaceキー 105
Battery LED 94, 98

C

Caps Lock LED 94, 95
CapsLock 英数キー 104
CD 80, 118
CD-ROM 装置 86, 118
CD-ROM 装置の取り扱い 131
CD-RW 装置 86, 118
CD-RW 装置の取り扱い 131
CD-RW に書き込む 122
CD-R に書き込む 122
CD 操作ボタン 86, 123
CD のセット 119
CD の取り扱い 134
CD の取り出し 120
CRT ディスプレイ 81
Ctrl キー 104, 105

D

DC IN LED 36, 94
Del キー 105
Disk LED 90, 94
DVD 81, 118
DVD-ROM 装置 86, 118
DVD-ROM 装置の取り扱い 131
DVD-Video を再生する 124
DVD のセット 119
DVD の取り扱い 134
DVD の取り出し 120

E

End キー 105
Enter キー 105
ESC キー 104

F

FDD/CD-ROM LED 94, 113
Fn キー 104
Fn キーを使った特殊機能キー 108

H

Home キー 105

I

Ins キー 105

L

LED 21
Arrow Mode LED 94
Battery LED 94, 98
Caps Lock LED 94
DC IN LED 36, 94
Disk LED 90, 94
FDD/CD-ROM LED 94, 113
Numeric Mode LED 94
Power LED 36, 94

M

ME-IME ツールバー 46
MS-IME 66

N

Numeric Mode LED 94, 95

O

OS 83

P

Pause キー 105
PgDn キー 105
PgUp キー 105
Power LED 36, 94
PS/2 マウス 87

S

Shift キー 104, 105
Space キー 104

T

Tab キー 104

W

Windows 98 セットアップ	21
Win キー	104

ア

アイコン	46
アキュポイント	47, 86
アキュポイント の取り扱い	131
アドレスバー	48
アプリケーション	83
アプリケーションキー	105
アロー状態	95, 108

イ

インサートキー	105
インストール	83
インターネットボタン	86, 91

ウ

ウィンドウ説明	48
[上へ] ボタン	52

エ

英字入力	74
液晶ディスプレイ	81
液晶ディスプレイの取り扱い	130
エスケープキー	104
エンターキー	105
エンドキー	105

オ

オーバーレイキー	105
大文字ロック状態	95
オペレーティングシステム	83
オルトキー	104, 105
音楽 CD を聴く	123
音量の調節	125

カ

改行	70
書き込み可能状態	116
書き込み禁止状態	116
確定	54, 70
カタカナ入力	72
かな入力	67

漢字キー	104
漢字に変換する	71

キ

キーシフトインジケータ	86, 94
キーボード	86, 104
キーボードの取り扱い	130
記号入力	72
キャプスロック英数キー	104

ク

クイック起動ボタン	46
クリック	47
クリック (マウス)	112

コ

コピー	55
[コピー] ボタン	55
ごみ箱	46, 57
ごみ箱を空にする	60
コントロールキー	104, 105
コントロールボタン	47, 87

サ

再起動	41
最小化ボタン	48
最大化ボタン	48
サイドライト用 FL 管	130
サウンド	125
[削除] ボタン	57

シ

システムインジケータ	86, 94
システムスピーカ	126
シフトキー	104, 105
シャットダウン	38
省電力アイコン	98
消耗品	130
新着メールチェック機能	93

ス

数字入力	74
数字ロック状態	95, 109
スクロールバー	48
スクロールボタン	47

スクロール (マウス).....	112
スクロールロック状態	109
[スタート] ボタン	46
スタンバイ機能	39
ステータスバー	48
スピーカ	86
スペースキー	104
スマートメディア	81
スマートメディアアダプタ	87

セ

セキュリティロック・スロット	87
全角	66
全候補キー	105

ソ

ソフトウェア	80
--------------	----

タ

タイトルバー	48
タスクバー	46
タブキー	104
ダブルクリック	47
ダブルクリック (マウス).....	112

ツ

ツールバー	48
通風口	87

テ

ディザリング	89
ディスプレイ	86, 89
ディスプレイ開閉ラッチ	20, 86
デスクトップ	46
デリートキー	105
電源コード	20, 87
電源コードの取り扱い	130
電源コネクタ	87
電源スイッチ	36, 86
電源スイッチロック	36, 86
電源を供給する	20

ト

特殊機能キー	110
時計用バッテリー	99
閉じるボタン	48

ドライバ	83
ドラッグアンドドロップ	47
ドラッグアンドドロップ (マウス).....	112

ナ

内蔵	80
内蔵モデム	127

ニ

入力モード	67
-------------	----

ハ

ハードウェア	80
ハードディスク装置	80, 90
ハイパネーション機能	40
パソコン使用時の姿勢	18
パソコンの設置環境	18
パソコン本体の取り扱い	129
バックスペースキー	105
バッテリー駆動	97
バッテリー充電量の確認	98
バッテリー充電量の減少	99
バッテリーの充電時間	100
バッテリーの充電方法	100
バッテリーの使用時間	100
バッテリーの節約	101
バッテリーパック	88
バッテリーパックの取りはずし / 取り付け	101
パネルスイッチ機能	42
[貼り付け] ボタン	56
半角	66

ヒ

ビデオ出力端子	88
ビデオ出力ケーブル	87
表示可能色数	89
ひらがな入力	69

フ

ファイル	49
ファイルに名前を付ける	54
ファイルをコピーする	55
ファイルを削除する	57
ファイルを作る	52
ファイルを元に戻す	60

ファンクションキー	104
フォルダ	49
フォルダに名前を付ける	54
フォルダをコピーする	55
フォルダを削除する	57
フォルダを作る	49
フォルダを元に戻す	60
フロッピーディスク	80, 113
フロッピーディスク装置	86, 113
フロッピーディスク装置の取り扱い	131
フロッピーディスクの取り扱い	133
フロッピーディスクの取り出し	114
フロッピーディスクのフォーマット	115
フロッピーディスクのセット	114
文書を保存する	76

へ

ページアップキー	105
ページダウンキー	105
ヘッドホン出力端子	88

ホ

ポーズキー	105
ホームキー	105
ボリュームコントロール	125
ボリュームダイヤル	87, 88, 125

マ

マイク入力端子	88
マイコンピュータ	46
マイドキュメント	46
マウスの取り扱い	132
マウスの取り付け	111
マウスポインタ	47
マウスの取りはずし	111

ミ

右クリック	47
-------------	----

メ

メール着信ランプ	86, 91
メールボタン	86, 91
メニューバー	48
メモ帳	64

モ

文字キー	65
モジュラーケーブル	87
モジュラーケーブルの取り付け	127
モジュラーケーブルの取りはずし	128
モジュラージャック	87
文字を削除する	70
[元に戻す] ボタン	61
元のサイズに戻すボタン	48

ヤ

矢印キー	105
------------	-----

ユ

ユーザ登録	30
ユーティリティ	83

ラ

ライトプロテクトタブ	116
------------------	-----

リ

リセットスイッチ	86
リリース情報	1

ロ

ローマ字キー	105
ローマ字入力	67